



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	コワーキングスペースの形態：国内施設に関する相関分析
Author(s)	阿部, 智和; 宇田, 忠司
Citation	経済学研究, 65(1), 97-135
Issue Date	2015-06-11
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59489
Type	departmental bulletin paper
File Information	ES65(1)_097.pdf



コワーキングスペースの様態：国内施設に関する相関分析

阿 部 智 和 ・ 宇 田 忠 司

1. はじめに

本論文の目的は、質問票調査にもとづき、国内のコワーキングスペースの実態を明らかにすることにある。より具体的には、ウェブ調査を実施し、国内で稼働している施設の全数に近い（2014年7月時点）と考えられる365スペースのうち、152スペースから得たデータを分析し、施設、運営組織、戦略、活動、利用者、成果、という6つの視点からスペースの実態に関する相関分析の結果を示す。

ここで、コワーキングとは、「働く個人がある場に集い、コミュニケーションを通じて情報や知恵を共有し、状況に応じて協同しながら価値を創出していく働き方」を意味する（宇田，2013）。また、コワーキングスペースとは、コワーキングを実践する個人が物理的に共有するワークスペースを指す。

このような働き方や働く場は、特定の企業内での労働や企業オフィスと比して、ワークスタイルの柔軟性や交流するメンバーの多様性、場の開放性の高さなどが期待されることから注目を集めている。実際、近年、欧米を中心に各国でコワーキングスペースが次々に開設され、その数は今や世界で約6,000¹⁾、国内で350以上にのぼる。しかしながら、コワーキングという働

き方やコワーキングスペースという働く場に関する現状把握は依然として十分ではないと思われる。そこで、本論文では、関連する領域の研究者はもちろん、スペースの運営者や業界に参入を試みる者の実践に資するように、質問票調査で得られたデータにもとづき、国内のコワーキングスペースをめぐる実態を記述していく。

次節以降の構成は次の通りである。2節では、コワーキングに関する先行研究の整理・検討を行う。3節では、本論文の具体的な方法について説明する。4節では、3節で記した方法にもとづいて収集されたデータに関する相関分析の結果を記述する。5節では、それまでの議論を整理するとともに本論文の意義と今後の課題を提示する。

2. 先行研究

2.1 コワーキングをめぐる理論的動向

コワーキングという働き方やコワーキングスペースという働く場の端緒は、フリーのエンジニアとして活動していたブラッド・ニューバーグ（Brad Neuberg）が、2006年にサンフランシスコにて「ハット・ファクトリー（Hat Factory）」を開設し、友人とともに働き始めたことにあるとされる²⁾。それ以来、同様の試みがアメリカの大都市を中心に広がるとともに、ヨーロッパや他地域にも伝播していっ

1) deskmagの2014年12月19日の記事（<http://www.deskmag.com/en/these-major-coworking-conferences-events-barcamp-s-will-take-place-in-2015>）を参照。deskmagは、コワーキングに関するオンライン・マガジンであり、後述するGlobal Coworking Surveyを実施している。

2) 『開発こうほう（北海道開発協会）』593, p.2。なお、コワーキングという現象の展開の詳細については、たとえば、宇田（2013）や埴淵（2014）を参照。

た。その結果、先述のように、いまや欧米を中心に世界各国で6,000近くのスぺースが稼働しており、約30万人に利用されるまでに至っている³⁾。日本でも、伊藤富雄が2010年に神戸で「カフーツ (Cahootz)」を開設して以降、わずか5年余りで350カ所以上がサービスを提供している。

このように、コワーキングあるいはコワーキングスぺースという現象は、欧米にとどまらず、日本や他の各国においても着実に浸透しつつある。これに伴い、各種メディア等でコワーキングの歴史や現状、展望等について言及する動きも活発化している。ただ、コワーキングあるいはコワーキングスぺースの実態を経験的に明らかにした調査や研究は依然として数少ない。

もちろん、国内外において徐々にではあるが、示唆に富む知見が蓄積されつつある。たとえばSpinuzzi (2012) は、アメリカのテキサス州オースティンにある9つのコワーキングスぺースに注目し、16名の運営者および17名の利用者へのインタビュー調査などにもとづき、コワーキングとは何か、誰がコワークするのか、なぜコワークするのか、という3つの研究課題を明らかにすることを試みている。その結果、事業者の定義はコミュニティ・ワークスぺースや非オフィス、連合的なスぺースとして集約できる一方、利用者の定義は代替オフィスや社会的なハブをはじめ多様かつ事業者や他の利用者と異なる傾向にあること、事業者は自身とバックグラウンドを共有する利用者を期待していたが、実際の利用者は様々な産業でのキャリアや多様な能力を有していること、利用者が立地や仕事、環境、利用者間のパートナーシップや触れ合い等を期待していることなど、いくつかの発見事実が提示されている。

一方、国内に目を向けてみると、たとえば、

有元・松本・松本・城戸崎・仲 (2012) は、コワーキングの現状を把握するべく、2次資料をもとに国内のスぺースの類型化に取り組むとともに、日誌調査とインタビュー調査から7名の利用者の働き方を整理した。その結果、調査時点で確認された54のコワーキングスぺースは、特徴に応じて、独立タイプ (48%)、カフェ・バータイプ (17%)、企業内タイプ (5%)、シェアオフィスタイプ (17%)、その他 (13%)、の5つに分類できることや、スぺースは昼過ぎから夕方頃に利用される傾向があることなどが示されている。

また、渡辺・松本・松本・城戸崎・仲 (2012) は、ウェブ・アンケートを通じて収集した40名の利用者のデータをもとに、スぺースを選択する要因について検討した。その結果、常時利用可能であることやオーナーの仕事内容・人柄といった項目がスぺースの選択に影響を及ぼしていることが示されている。

さらに、中村 (2013) は、国内の23のスぺースの開設状況を整理・検討したうえで、運営目的 (特定目的志向／コミュニティ志向) と利用方式 (ドロップイン志向／入居志向) の2軸を用いて、スぺースの分類を試みている。その結果、コワーキングスぺースは、ドロップイン／コミュニティ志向から入居／特定目的志向へと展開しつつあることが指摘されている。くわえて、コミュニティの形成手法や収益システムの構築などスぺース運営にかかわる7つの課題も提示されている。

このように、国内では、建築学や経営学の領域を中心に調査や研究が重ねられつつあるが、なかでも、埴淵 (2014) は、コワーキングおよびコワーキングスぺースについて体系的かつ経験的に検討した研究として注目に値する。埴淵は、都市における「共働空間」としてのコワーキングスぺースの実態を明らかにしたうえで、当該スぺースが人々の社会関係や都市・地域に及ぼす影響について論じている。具体的には、運営者に対するインタビュー調査と利用者への

3) 脚注1) を参照。

アンケートおよびインタビュー調査⁴⁾をもとに、スペース運営とスペース利用の実態を提示し、そのうえで社会関係資本や創造都市論を援用しながら分析結果の考察と政策的提言を行っている。このような試みの結果、スペース運営については、たとえば、運営者がコミュニティの形成やメンバーの多様性を重視していることや、開設に比べて運営の難しさに直面していること、都市部と比べ地方では行政との関係が具体的に意識されていることなどが明らかにされている。一方、スペース利用については、30代(46.4%)、男性(82.8%)、専門・技術系(技術者・ソフトウェア制作者など：51%)、フリーランス(46.9%)といった属性の利用者が中心であることをはじめ、示唆に富む知見が数多く示されている。

しかしながら、埴淵が依拠しているデータは、主として名古屋市と東京都特別区のスペースおよびその利用者から収集されたという点で一定の地域バイアスがあることは否めず、そこから導出された知見は、国内のコワーキングおよびコワーキングスペースの実態に十分即したもののとはいえない。

また、上述した国内の他の先行研究も、範囲や対象が限定的な調査にもとづいており、当該事象の全体像に迫ることができていないと考えられる⁵⁾。

4) 具体的には、11名(内訳は、名古屋市5名、東京都特別区3名、その他地方都市3名)の運営者に対するインタビュー調査と、5つ(内訳は、名古屋市2店舗、東京都特別区1店舗、その他地方都市2店舗)のスペースの利用者に対するアンケート調査(有効回答数は99)、5名(名古屋市)の利用者に対するインタビュー調査が実施されている。

5) コワーキングに関連する他の先行研究として、たとえば、コワーキング(コワーキングという概念が台頭する以前から同様の考え方を実践していたことが言及されている)の場としての図書館の成立について論じた小林(2011)や、Fablabに代表される国内外のものづくり施設の実態を明らかにした小泉・佐々井・池田・本江(2012)や小泉・池田・本江(2013; 2014)な

このようななか、コワーキングに関するオンライン・マガジンであるdeskmagによって2010年より毎年実施されているGlobal Coworking Survey(以下、見出しを除きGCSと表記)は、世界規模で当該事象の全体像およびその変遷を把握するうえできわめて有用な資料であると考えられる。したがって、次節では、GCSの知見を整理する。

2.2 Global Coworking Survey

GCSは、deskmagによって実施されているコワーキングに関する世界規模の年次調査である。この調査の目的は、コワーキングスペースそのものやその利用者、運営者、潜在的な利用者の様態を明らかにすることである。

第1回調査は、2010年12月に実施され、24カ国661名のデータが収集された。第2回調査は、2011年10月から11月にかけて行われ、質問項目数は1回目よりも減少したものの、52カ国1,500名以上のデータが収集された。第3回調査は、2012年10月から11月にかけて行われ、2,007名のデータが収集され、第4回調査は、2013年11月から12月にかけて行われ、2,706名のデータが収集された。なお、第5回調査は、2014年12月に完了済みである。

ここでは、まとまった成果が発信されている第1回から第3回調査に注目し、以下の6つの観点から整理していく。すなわち、施設、運営組織、戦略、活動、利用者、成果である。これらに注目することで、本論文で明らかにしていくコワーキングスペースの様態について包括的に把握することができると考えられる。

施設⁶⁾

デスク数の平均は、第1回から第3回調査に

どが挙げられる。ただ、前者は単一事例、後者の一連の研究は「ものづくり施設」に焦点を絞った事例調査であり、いずれも本文で取り上げた先行研究と同様の限界を抱えている。

6) ここでは、特に示さないかぎり、GCS第1回調査を参照している。

かけて 38, 40, 41 と推移しており, 増加傾向にある。なお, 3 分の 1 弱のスペースは, デスク数が 19 未満である一方, 4 分の 1 は 50 を上回っている。地域別にみると, ヨーロッパのスペースの平均は 34 である一方, アメリカのスペースは 43 と 3 割近くデスク数は多い。アメリカのスペースの 3 分の 2 は 30 人以上収容可能である一方, ヨーロッパの場合, 同様のスペースは 3 分の 1 未満である。

施設利用については, アメリカのスペースの 2 分の 1 がフリーアドレスを導入している一方, ヨーロッパのスペースは, 3 分の 1 にとどまっている。ただ, 個室を主と設定しているスペースは全体のわずか 7% である⁷⁾。

施設を開設するまでの準備期間の平均は 7 ヶ月である。

運営組織⁸⁾

スペースを開設する際のメンバー数の平均は, 2.8 人であった。規模別でみると, 10 人未満を対象とした小規模スペースの 3 分の 1 は, 単独で開設されているものの, 平均でみると, 2.2 人が関与している。50 席を上回るスペースでは平均 4 人が開設に加わっている。なお, 運営者の数は, メンバーの拡大とともに増えない傾向にあることも併せて示されている。

スペースの運営主体は, 80% が民間, 13% が NPO, 残りは行政系となっている。なお, 運営責任者の 74% は副業を持っている。

開設費用の平均は, ヨーロッパのスペースが 46,500 ユーロ, アメリカのスペースが 58,000 ドルとなっており, 当時の為替を考慮すると, 投資レベルはかなり類似していることが指摘されている。開設費用の調達については, 3 分の 2 が自己資金で賄っている一方, 銀行融資やベンチャー・キャピタルの出資はそれぞれ 13%, 5% と少数派である。クラウド・ファン

ディングや行政からの援助によって開設したスペースはわずかである。なお, 大規模スペースの場合, 相対的に自己資金で賄うケースは少なく, 銀行融資や民間投資を用いるケースが多い。

稼働期間については, 平均が 18 ヶ月となっているが, 50% 以上のスペースが 12 ヶ月, すなわち 1 年以内である。地域別でみると, ヨーロッパは 16 ヶ月, アメリカは 18 ヶ月と大きく変わらない結果となっている。

戦略⁹⁾

コワーキングスペースの最大の競合は, ホーム・オフィスである。具体的に, 全体の 58% と過半数の利用者が仕事を自宅からコワーキングスペースに変更した一方, 企業オフィスからの移行組は 22%, それ以外はさらに少数派となっている。なお, コワーキングスペースに限定してみると, 同一市内に約 5.3 の同業者がいることが示されている。

また, 大半 (83%) のスペースがリージョナルもしくはローカル・レベルで他スペースと交流している一方, 全く交流していないスペースはわずか (10%) である。

活動

スペースで開催されるイベント数の平均は月に 4.5 回である。ただ, 全体の 21% が平均 2 回開催している一方, 15% が 10 回以上開催している。地域別にみると, ヨーロッパのスペースの平均は月 5 回, アメリカのスペースの平均は月 7 回とアメリカのほうが頻繁に開催されている。また規模に注目すると, 収容人数が 50 人以上のスペースはイベントへの参加率が高いことも報告されている¹⁰⁾。

利用者が参加しているイベントの種類については, 食事を共にするなど何らかの結びつきを

7) GCS 第 2 回調査。

8) *Ibid.*

9) *Ibid.*

10) *Ibid.*

作るイベントや、法務上のアドバイスやコード作成などに関するワークショップ、プレゼンテーション・セッションが、それぞれ75%、72%、65%と高い割合を占めている¹¹⁾。

利用者¹²⁾

まず、利用者の属性に関する知見について整理する。利用者の平均年齢は34歳である¹³⁾。利用者的大半(78%)は40歳未満であり、30歳未満も41%を占めている。地域別にみると、ヨーロッパとカナダの平均年齢は34歳でアメリカは33歳と、ほぼ同じ結果となっている。また、スペースが所在する都市の規模別にみると、100万人規模の都市では平均が32歳である一方、2万人以下の都市では43歳と一回りほど開きがある。

利用者の就業上の地位については、54%がフリーランス、20%が小規模事業者(雇い人のある起業家)、20%が正規従業員(大半は従業員5人未満の企業¹⁴⁾で勤務)となっている。年齢別にみると、シニア層(50-64歳)のコワーカーはフリーランス、若年層コワーカー(20-34歳)は大企業の従業員のケースもあるが、小規模企業の起業家も多い。地域別にみると、ヨーロッパとアメリカの双方において、利用者の約3分の2がフリーランスあるいは小規模事業者であり、平均を下回っている。その分、組織人の利用が相対的に多い(たとえば、アメリカの場合、35%)。

利用者の職種は、ウェブ開発/デザイナー(44%)、広報/マーケティング(13%)が相対的に多い。全体的には技術系の職種が多数派である。年齢層別にみると、低い年齢層のコワーカーの42%はウェブあるいはIT開発者

である。これが中年層になると25%まで下がり、シニア層に至ると12%まで落ちこむ。一方、シニア層はコンサルタントや広報の専門家、デザイナー、ジャーナリストが相対的に多い。地域別にみると、ヨーロッパは、プログラマーが平均よりやや少ない一方、建築家やコンサルタントがやや多い。

メンバー数の平均は、第2回から第3回調査にかけて、38、44と増加傾向にある。地域別にみると、ヨーロッパのスペースの平均は30人、アメリカのスペースは44人となっている¹⁵⁾。利用者の性別は、3分の2が男性となっている。

次に、利用者の態度や行動に関する知見について整理する。コワーキングスペースの意義や価値について、たとえば、ほぼ全て(96%)の利用者が、スペースのメンバー間で重要な価値を持つのはコミュニティと回答している。また、スペースにおいて最も重要なこととして、他者との交流(84%)、利用時間の柔軟性(83%)、偶発的な発見の奨励(82%)が挙げられている¹⁶⁾。

実際に、第1回調査時点で、81%が強固なコミュニティを望んでおり¹⁷⁾、第2回調査時点でも、4分の3はコミュニティと他者との知識共有を希求している。これは、51%が20人未満を対象とした比較的小規模なスペースを希望していることとも関連している。また、柔軟な労働(利用)時間を求める声も多く、伝統的な労働(利用)時間を望む者は30%にとどまっている。とくにヨーロッパの場合、96%が利用時間の柔軟性を重視している。他にも、たとえば施設利用については、固定席希望者が47%、自由席希望者が51%とほぼ拮抗している。

では、利用者はどのようにスペースを利用し

11) GCS 第3回調査。

12) 特に示さないかぎり、GCS 第1回調査を参照。

13) 第2回調査の結果も34歳と変わっていない。ただ、徐々に利用者の裾野は上下に拡大していることが指摘されている。

14) 100人以上の企業で働く者は8%である。

15) GCS 第2回調査。

16) *Ibid.*

17) ヨーロッパのスペース利用者は、55%にとどまっている。

ているのであろうか。大半は、マンスリー・プランを選択し、デイリー／ウィークリー・プランはわずか10%にとどまっている¹⁸⁾。大半の利用者は24時間365日使用できるプランを選択している。これについては、ヨーロッパもアメリカ(60%)も同様である。利用日数については、3分の1は毎日、60%は週3-4回以上であり¹⁹⁾、多くの利用者が高頻度でスペースを訪れている。また、利用形態はフリーアドレスが3分の2と固定席(4分の1)を上回っている。なお、3分の2はスペース利用歴が現スペースのみで、複数スペースを利用している者はごくわずか(4%)である²⁰⁾。

さらに、利用者がスペースでどのような活動を展開しているかについて、整理する。活動の単位については、全体の57%の利用者がチームを組み、作業に従事することが頻繁にあると答えている²¹⁾。年齢層に着目すると、とくに若年層は各プロジェクトにより長期間関わることを求める傾向があるなど、個人よりもチーム単位での活動を志向している。スペースの規模別にみると、小規模スペース利用者の74%、大規模スペース利用者の53%が、チーム単位で働く機会が頻繁にあると回答している。

このようにスペースを利用することで、利用者はどのような効果や成果を得ているのであろうか。全体の88%の利用者が他者と良好な交流²²⁾を行っていると回答している²³⁾。より具体

的には、10デスク未満のスペースの利用者は、10人と有益な関係を築いている。10-19デスクのスペースでは5人まで落ち込み、60以上のデスクのあるスペースでは7人まで回復する。このことから、スペースが小規模もしくは大規模のとき、他者との新たなつながりを作る機会は多いことが示唆される。ただ、スペースの規模が拡大するにつれて、チームで働く、あるいは他者と良い交流を楽しむ傾向は減る。年齢層に注目すると、若年層コワーカーは、利用開始以降、平均6人と価値ある関係を築いている²⁴⁾。この数値は中年層でわずかに下がるものの、シニア層では7人まで増える。第2回調査では、スペースを利用したことで、人の輪が拡大した(90%)、孤立感が緩和された(86%)、仕事上のネットワークが拡大した(80%)、仕事の生産性が高まった(75%)などの効果があったことが示されている。第3回調査では、スペースを利用し始めてから、事業に関するアイデア(74%)、創造性(71%)、集中力(68%)、時間内でのタスク完了(64%)、仕事の標準的な進め方(Standard of work)(62%)に変化がみられたことが報告されている。

最後に、利用者がスペースをどのように評価しているのかについて、まとめておく。ヨーロッパとアメリカの双方において、ほぼ全て(90%以上)の利用者はスペースに満足しており、大半(3分の2)はスペースを離れる意思はない。第2回調査時点では、スペースへの満足度を10件法で尋ねたところ、平均は8.4であった。また利用者はスペースの人(81%)、場所(61%)、利用料金(46%)などを気に入っており、大半(68%)はスペースを去る

18) GCS 第2回調査。

19) 多数派(47%)は、時間や曜日を問わず(24/7)スペースを利用している。

20) GCS 第2回調査。

21) ただ、第2回調査によると、過半数(53%)は個人単位で働くことに満足している。

22) 第3回調査によると、利用者は、他の利用者との間で他愛のない話(77%)、相手の勤務先に関する話(72%)、知識共有とアドバイス(62%)などを行っていると答えている。

23) 第2回調査によると、大半(74%)の利用者が、他の利用者全てあるいは彼(女)らの多くについて名前を知っている。また、大半(77%)の利用者が、少なくとも数人と仕事終了後

や週末に交流している。ほぼ全ての利用者と交流している者が3割近く(27%)に上る一方、スペース外で他者と交流しない者は一部(15%)にとどまる。

24) 関連する項目として、第2回調査では、利用者は過去2ヶ月間に平均3.6の有益な出会いを経験していることが示されている。

予定はないことが示されている。第3回調査時点では、満足度の平均は8.3とほぼ変わらず、高い値で推移している。地域別にみても、ヨーロッパ8.2、北アメリカ8.4、ラテンアメリカ8.7、アジア8.5、アフリカ8.5と大きな違いはみられない。

成果²⁵⁾

デスクの平均「稼働」率については、第1回から第3回調査にかけて、44%、50%、55%と推移しており、増加傾向にある。第1回調査によると、地域別にみた場合、ヨーロッパのスペースは54%、アメリカとカナダは43%となっている。またスペースの所在する都市の規模別にみると、大都市のスペースは48%、小都市は44%とそれほど大きな差はない。なお、稼働率は座席数と反比例することも併せて示されている。

デスクの平均「利用」率については、第2回から第3回調査にかけて、109%、101%と減少傾向にある。100デスク以上のスペースの場合、平均172%と全体の平均を大幅に上回り、大規模スペースほどデスクを共有するメンバーが増える傾向にある。

スペース事業の収支については、半数近く(40%)のスペースが利益をあげている。スペースの規模別にみると、10席未満のスペースの過半数(56%)は赤字で、黒字のスペースは少数派(25%)である一方、50席以上のスペースの大半(70%)は利益をあげており、赤字スペースは一部(20%)にとどまる。開設時と比べて平均してメンバーは約30%増加しており、メンバーが増えるとともに、利益は増加する傾向にある。地域別にみると、アメリカでは半数のスペースの収支は均衡もしくは利益を上げている状態にあるが、ヨーロッパでは、3割にとどまっており、利益を確保できないス

ペースが相対的に多い。

損益分岐に注目すると、大半(72%)のスペースは開設2年以内に損益分岐点を上回り、利益をあげるようになる。この数値は、民間運営に限定すると、87%まで高まる。なお、興味深いことに、ある地域で営まれるスペース数が多いほど、各スペースは利益をあげられ、損益分岐点に速く到達する傾向にある。一方、特定の市内で独占的に存在しているスペースは、平均的なスペースの2倍赤字になる傾向も示されている。スペース数が多い場所ほど、ニーズも高く、コンセプトも浸透している傾向にあることが指摘されている。

運営者の所得については、30人未満を対象としたスペースのフルタイム運営者の多く(64%)は、平均所得と同等か平均以上の収入を得ている。

2.3 研究課題

本節では、これまでコワーキングおよびコワーキングスペースに関する先行研究の整理・検討を行ってきた。その結果、確かに国内外において当該事象の記述や説明を試みる研究が徐々に蓄積されつつあることが確認された。ただ、世界規模の年次調査であるGCSを除くと、ほとんどは調査の範囲や対象が小規模かつ限定的であり、スペースの運用および利用に関する全体像を把握するまでに至っていない。また、GCSの分析結果は確かに有用ではあるものの、世界各国のデータが統合されたものである。分析結果の地域による差異は部分的に言及されているが、地理的特性や産業および就業構造、働く人々の態度・行動などは国によって異なりうる。そのため、GCSのような意義深い取り組みと並行して、差し当たり各国のスペース運営やスペース利用に関する概観的な知見を積み重ねていくことが求められる²⁶⁾。

25) ここでの成果は、スペース事業に関連するものに限定している。また、記述については、特に示さないかぎり、GCS第2回調査を参照している。

26) その問題意識にもとづいて、国内のコワーキングスペースを概観した。詳細については、阿部・宇田・平本(2015)を参照。

そこで、本論文では、日本全国の「コワーキングスペース」に注目し²⁷⁾、その様態に関する主要な変数間の関係を経験的に明らかにしていくことにする。

3. 研究方法

3.1 調査方法

前節で示された研究課題を解決すべく、われわれは独自に質問票を作成し、調査を実施した。実施に際しては、インターネット・リサーチ会社のサービスを利用した。実施期間は、2014年7月28日から9月3日の38日間である。

質問票調査の対象は以下の手順にしたがって抽出された。まず、フェイスブックのコワーキング JP のグループ・ページにおいて公開されているデータ・セットを利用した²⁸⁾。具体的には、調査準備を開始した2014年6月段階において、最新のファイルである2014年1月28日付のファイルを利用している。また、コワーキングスペースの開設数が増加傾向にあることを踏まえ、他のインターネット・サイトも活用し、データ・セットの更新を行った²⁹⁾。これらの作業の結果、国内で稼働している施設のほぼ全数に近いと考えられる(2014年7月時点)365スペースのうち、191スペースの回答を得た(回収率は52.3%である)。さらに本論文では、ドロップイン(一時利用)ができるスペースに考察の対象を限定することとした。その理由は、宇田(2013)で示されているように、概念的に、場の開放性とメンバーの多様性が期待されるスペースこそが、コワーキングの性質を

最も体现していると考えられるからである。その結果、分析に利用した回答数は152である。

3.2 分析方法

質問票調査では、コワーキングスペースの特徴を包括的に把握するために、6つのパートからなる質問を運営責任者に尋ねている。具体的には、施設、運営組織、戦略、活動、利用者、成果、の6つである。具体的な質問項目は表1に示されている³⁰⁾。本論文では、これらのパートにおける各項目間の関係を明らかにするために、相関分析を実施した。

4. 分析結果

以下では、表1のパート順に相関分析の結果を示す³¹⁾。なお、各パート内のある項目について、他の全ての項目との相関関係を必ずしも取り上げるわけではなく、論点に応じて選択的に分析結果を記述する。

4.1 施設

表1に示したように、本論文における施設に関する項目は、スペースの面積と座席数(およびパーティション席数)である。ここでは、これらの項目間の相関関係を確認する。

表2に示されているように、面積と座席数の間には正の相関関係がある(0.697)³²⁾。これは、直感的には当然の関係であると思われる。

27) 本論文で、差し当たりコワーキングスペースに注目する理由は、コワーカーと比べて現象の経時的な変動が少なく、コワーキングという事象の全体像を把握するにあたって、基礎的な知見を獲得できると考えたためである。

28) コワーキング JP (<https://www.facebook.com/groups/cowjap/>)。

29) コワーキングスペース JP (<http://coworking-space.jp/>) やコワーキング・COM (<http://co-working.com/>) などを参考している。

30) 具体的な質問項目については、文末の質問票を参照。

31) 本論文では、分析結果の解釈について、因果関係を想定した記述を試みている。当然のことながら、相関分析の結果をもとに、因果関係を論じることとはできない。それゆえ、本論文で示す知見について更なる分析を加え、因果関係に関する考察を深める必要がある。ただし、本論文では仮説を提示することとし、因果関係に関する議論は稿を改めて論じることとした。

32) 以下では特段の断りがない限り、括弧内に記載されている相関係数の有意水準は1%である。5%水準や10%水準の場合には、その都度記載する。

表1 分析対象項目

項 目	
(1)施設	•面積 (㎡) •座席数 •パーティション席数
(2)運営組織	•専業度 (1 = 専業, 2 = スペース事業を主とするが他の事業もあり, 3 = スペース事業は副業) ※以降の分析では, 反転させ, 専業度 (R) と表記する。 •スタッフ数 •運営責任者の労働時間 (日・週) •運営責任者の年齢 •運営責任者のスペース運営歴
(3)戦略	•運営の方針 •連携の方針
(4)活動	•イベント (回数・ジャンル) •イベントに対する運営責任者の見解
(5)利用者	•利用者数 (ヘビー・ユーザー数) •会員／非会員の割合 •利用者の属性 (職種・年齢層) •会員／非会員の利用時間 (日)
(6)成果	•売上 •会員売上上の割合 •スペースに関する運営責任者の現状認識

表2 施設の相関行列

	平均	標準偏差	面積 (㎡)	座席数	パーティション席数
面積 (㎡)	123.95	148.20	1.000		
施設 座席数	33.89	26.76	0.697**	1.000	
パーティション席数	5.75	10.13	0.388**	0.582**	1.000
			0.000	0.000	

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$

各変数の上段は相関係数, 下段は有意確率である。

しかし、図1に示されるように、面積が150㎡周辺までとそれ以降の分布には相違がみられる。すなわち、150㎡までは分布が直線に近接しているのに対して、それ以降は直線に近接しているわけではない。つまり、線形の関係ではない可能性が示唆される。一定の面積以上を有するスペースでは、座席数の増え方に違いがみられるのかもしれない。

面積とパーティション席数の間にも同様に相関関係がみられる (0.388)。パーティション席

数と面積の関係について図2に示した。先に示した座席数の増加の場合ほどは、面積との間に明確な関係はみられない。

4.2 運営組織

表1に示したように、本論文における運営組織に関する項目は、専業度 (R)、スタッフ数、運営責任者の

労働時間 (日・週)、運営責任者の年齢、運営責任者のスペース運営歴である。ここでは、これら運営組織に関する項目と (1)施設に関する項目との関係と、運営組織に関する項目間の関係について記述する。

表3に示されているように、スペースの専業度 (R) とスペースの面積には相関関係はみられない。専業度 (R) と座席数との間には10%水準で弱い負の相関 (-0.140) がみられるのみである。スペース運営を専業とする場合、ス

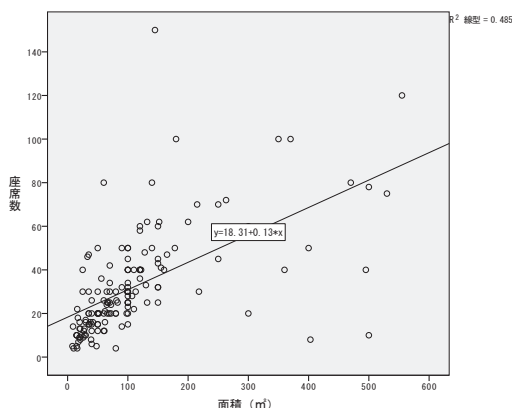


図1 面積と座席数の関係

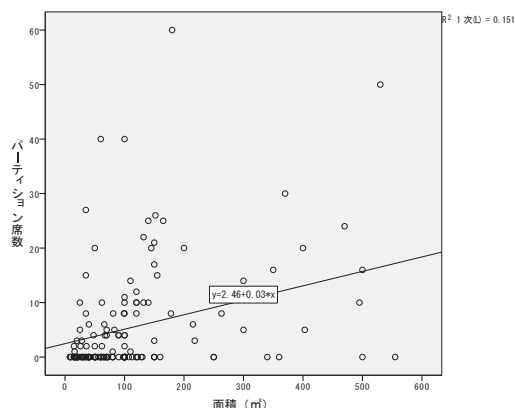


図2 面積とパーティション席数の関係

ペース運営そのものを事業として成立させなければならないことから、面積を広げ、座席数も増やし、多くの利用者を求めることも考えられる³³⁾。しかし、そうした関係は必ずしも成立していないことが示される。

スタッフ数に着目すると、平均値は5.57人³⁴⁾であり、座席数の増加とともにスタッフ数が増える傾向にある(0.211)³⁵⁾。この関係は図3に示されている。

運営責任者の労働時間・日数に注目すると、1日あたりの平均労働時間は7.29時間、1週間の平均労働日数は4.74日であり、面積および

座席数と労働時間・日数の相関はみられない。面積や座席数が増える、あるいは減るからといって、労働時間・日数は共変しないことが示唆される。

運営組織に関する項目の中で、運営責任者の労働時間・日数と運営に携わるスタッフ数に注目する。表3に示されているように、労働時間・日数とスタッフ数の間の相関係数をみると、スタッフ数が多いほど、運営責任者の労働時間および日数が減少することが示唆される。具体的には、10%水準であるが、運営責任者の労働時間とスタッフ数の間には、ごく弱い負の相関関係が成立している(-0.140)。また、スタッフ数が増えるほど、運営責任者の労働日数は減る(-0.248)。運営責任者が不在でもスタッフ数を増員することで、スペースの営業日数を維持できるようになるのかもしれない。

4.3 戦略

表1に示したように、本論文における戦略に関する項目は、スペースの運営方針と連携方針に関する次の10項目である³⁶⁾。すなわち、①近隣のコワーキングスペースは事業上のライバルである、②近隣のコワーキングスペースと連携している、③近隣ではないコワーキングス

33) 面積を広くすれば賃料も上昇するはずである。そのため、採算性を重視すると広いスペースを運営することを回避するのかもしれない。ただし、賃料以外の固定費には、運営責任者を含むスタッフの人件費がある。人件費は運営時間に比して増加すると考えられるが、面積の増加ほどには増加しないと思われる。これらのことを踏まえても、スペース運営を専業とする場合、面積を広くするということもありうるはずである。

34) 全体の7割弱のスペースが5人以下で運営されている(宇田・阿部, 2015b)。

35) このように座席数の増加とともにスタッフ数が一定の割合で増えるのは、必ずしも当然といえる関係ではないと思われる。なぜなら、コワーキングスペースの場合、飲食業のように個別に接客するわけではなく、受付等が主要な業務であるため、座席数に応じて増員する必要性が低いと思われるからである。

36) 各項目について、「1=全くちがう」から「5=全くその通り」の5点尺度で尋ねている。

表3 運営組織の相関行列

	平均	標準偏差	専業度 (R)	労働時間 (日)	労働日数 (週)	運営歴 (月)	スタッフ数	面積 (㎡)	座席数	パーティ ション席数
専業度 (R)	2.55	0.68	1.000							
労働時間 (日)	7.29	3.68	-0.093	1.000						
			0.256							
運営組織 労働日数 (週)	4.74	1.76	-0.115	0.667 **	1.000					
			0.159	0.000						
運営歴 (月)	19.49	12.24	0.038	0.129	0.042	1.000				
			0.640	0.114	0.608					
スタッフ数	5.57	5.79	-0.092	-0.140	-0.248 **	0.037	1.000			
			0.261	0.085	0.002	0.655				
面積 (㎡)	123.95	148.20	0.046	0.090	0.124	0.020	0.100	1.000		
			0.576	0.272	0.127	0.804	0.221			
施設 座席数	33.89	26.76	-0.140	0.112	0.151	0.003	0.211 **	0.697 **	1.000	
			0.086	0.168	0.064	0.974	0.009	0.000		
パーティション席数	5.75	10.13	-0.114	0.053	0.012	-0.025	0.149	0.388 **	0.582 **	1.000
			0.163	0.520	0.880	0.760	0.067	0.000		

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$

各変数の上段は相関係数, 下段は有意確率である。

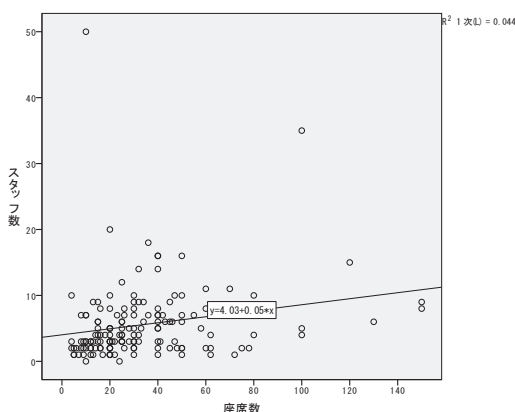


図3 座席数とスタッフ数の関係

ペースと連携している, ④コワーキングスペースが所在する地域と積極的に関わっている, ⑤他企業と連携している, ⑥行政と連携している, ⑦NPOと連携している, ⑧専門学校や大学, 病院などの公的機関と連携している, ⑨コワーキングスペース単体での採算性を重視している, ⑩コワーキングスペースにおけるコミュニティ形成を重視している, の10項目である。スペース運営の方針は, 上記の①, ⑨, ⑩に当たり, スペースの連携方針は, ②から⑧が該当する。

ここでは, これら戦略に関する項目と(1)施設, (2)運営組織に関する項目との関係と, 戦略に関する項目間の関係について検討しておく。

表4に示されているように, 採算性重視とい

う戦略を追求している場合, 面積を広くする傾向がみられる。ただし, 10%水準でみた場合にのみ, 有意な関係が成立する点に注意が必要である。また, 採算性重視の戦略と座席数の間には相関関係がみられる(0.262)。すなわち, 採算性を重視する場合, 面積以上に事業成果に直接的な影響を及ぼす座席数に焦点を当て, 座席数の多いスペースを設立し, 多くの利用者を求めていることが示唆される。

連携の方針とスタッフ数については, 他企業(0.204, 5%水準), 公的機関(0.213)と連携しているほど, スタッフ数が多くなる傾向がみられる。一方で, 近隣および遠隔にあるスペースや地域, 行政, NPOとの連携の程度とスタッフ数の間は無相関である。

表4に示されているように, 近隣スペースをライバルと回答しているスペースは, 他のあらゆる主体との間に連携関係を有していないことが示唆される。近隣スペースをライバルと思っている場合, 採算性を重視する傾向がみられる(0.352)。これは, スペース間の競争が厳しく, 採算性のみを求めていることを示唆している。また, 運営責任者がコミュニティ形成を重視しているほど, 地域(0.422), 行政(0.309), 遠隔スペース(0.276), 近隣スペース(0.261)などと連携が深い傾向にある。スペース内でのコミュニティ形成を重視している運営責任者は, スペース外の地域や行政と協力し, より地域に根差したコミュニティを形成し

表 4 戦略の相関行列

	平均	標準偏差	近隣スペース はライバル	近隣スペース と連携	遠隔スペース と連携	地域と連携	他企業と連携	行政と連携	NPOと連携
戦略	近隣スペースはライバル	1.86	0.97	1.000					
	近隣スペースと連携	2.53	1.37	0.020 0.805	1.000				
	遠隔スペースと連携	2.75	1.48	-0.089 0.276	0.464 ** 0.000	1.000			
	地域と連携	3.47	1.30	0.015 0.856	0.259 ** 0.001	0.306 ** 0.000	1.000		
	他企業と連携	3.07	1.49	0.061 0.452	0.249 ** 0.002	0.372 ** 0.000	0.307 ** 0.000	1.000	
	行政と連携	2.63	1.50	-0.090 0.268	0.290 ** 0.000	0.295 ** 0.000	0.350 ** 0.000	0.398 ** 0.000	1.000
	NPOと連携	2.44	1.42	-0.023 0.781	0.324 ** 0.000	0.335 ** 0.000	0.300 ** 0.000	0.324 ** 0.000	0.505 ** 0.000
	公的機関と連携	2.24	1.29	-0.064 0.434	0.188 * 0.020	0.355 ** 0.000	0.350 ** 0.000	0.547 ** 0.000	0.510 ** 0.000
	採算性重視	2.68	1.44	0.352 ** 0.000	0.123 0.130	0.158 0.052	0.021 0.798	0.047 0.564	-0.020 0.811
	コミュニティ形成重視	4.26	0.95	-0.076 0.352	0.261 ** 0.001	0.276 ** 0.000	0.422 ** 0.000	0.138 0.091	0.309 ** 0.000
施設	面積 (㎡)	123.95	148.20	0.089 0.275	0.052 0.524	0.131 0.107	0.068 0.403	0.274 ** 0.001	0.210 ** 0.010
	座席数	33.89	26.76	0.096 0.240	0.046 0.573	0.127 0.120	0.000 0.995	0.297 ** 0.000	0.163 * 0.045
	パーティション席数	5.75	10.13	0.100 0.219	-0.005 0.949	0.007 0.933	0.009 0.908	0.152 0.062	0.104 0.204
	専業度 (R)	2.55	0.68	-0.036 0.664	0.031 0.707	-0.074 0.364	-0.058 0.475	0.043 0.600	0.111 0.172
運営組織	労働時間 (日)	7.29	3.68	0.056 0.495	0.025 0.762	0.074 0.364	-0.034 0.677	0.016 0.846	0.002 0.982
	労働日数 (週)	4.74	1.76	0.041 0.614	-0.136 0.095	-0.040 0.624	-0.159 0.050	-0.044 0.589	-0.032 0.698
	運営歴 (月)	19.49	12.24	-0.072 0.380	0.005 0.952	0.136 0.095	-0.146 0.073	0.129 0.113	0.017 0.832
	スタッフ数	5.57	5.79	-0.059 0.471	0.091 0.264	0.135 0.097	0.100 0.220	0.204 * 0.012	0.119 0.145
									0.097 0.236

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$

各変数の上段は相関係数, 下段は有意確率である。

ようとしていることが示唆される。また、他のスペース間を横断したコミュニティの形成を試みていることも示唆される。コワーキングビザjpのようなスペース間の連携を目的とした試みも、このような傾向に影響を与えているのかもしれない。

連携に関する項目に着目すると、程度の差はあれ、項目間全てに相関関係がみられる。このことは、他のスペースと連携している場合、他の主体とも連携していることを意味している。ここでは、顕著な傾向がみられるものについてのみ言及しておく。まず、近隣スペースと連携しているほど、遠隔スペースと連携する傾向がみられる (0.464)。すなわち、こうしたスペースは様々なスペースを結び付けるハブとして機能していることが示唆される。また、近隣スペースと連携しているほど、地域 (0.259), 他企業 (0.249), 行政 (0.290), NPO (0.324), 公的機関 (0.188, 5%水準) とも連携していることが示唆される。また、他企業, 行政,

NPO, 公的機関のいずれかの主体と連携しているスペースは、残りの3つの主体とも連携する傾向にある。

4.4 活動

表1に示したように、本論文におけるスペースの運営活動に関する項目は、イベントの回数とイベントのジャンルにくわえて、イベントに対する運営責任者の見解に関する次の10項目³⁷⁾である。すなわち、①イベントはスペースにとって重要な収入源である、②イベントをきっかけにして、スペース外部の人々との相互交流が促進される、③イベントをきっかけにして、スペース内の利用者の相互交流が促進される、④イベントの善し悪しはスペース運営の重要課題である、⑤イベントの企画は、運営責任者自ら考えることが多い、⑥イベントの企画は、利用者から提案されることが多い、⑦イベ

37) 各項目について、「1=全くちがう」から「5=全くその通り」の5点尺度で尋ねている。

[illegible]

ントの講師等を、運営責任者自らがつとめることが多い、⑧イベントの講師等を、利用者がつとめることが多い、⑨イベントをきっかけにして利用者数が増える、⑩スペースにとってイベントは重要である、の10項目である。なお、⑤から⑧以外の項目への回答は、回答者である運営責任者の認識を示している。

ここでは、まず、4.4.1にて、これら活動に関する項目のなかでもイベント数と(1)施設、

(2)運営組織、(3)戦略、(4)活動（イベントに対する運営責任者の見解に関する項目）、(5)利用者、(6)成果（売上に関する項目を除く）に関する項目との関係を検討する。次に、4.4.2にて、イベントに対する運営責任者の見解に関する項目と(2)運営組織、(3)戦略との関係、イベントに対する運営責任者の見解に関する項目間について確認する。

4.4.1 イベント回数

イベントの回数については、1ヶ月平均で5.68回、中央値は4であったため、1週間に1

回程度のペースで開催されていると推測できる
(宇田・阿部, 2015b)。

表5-1³⁸⁾にみられるように、スペースの面積とイベント数には相関がみられない。しかし、座席数とイベント数の間には有意な正の相関関係がみられる(0.261)。つまり、多くの座席数を有するスペースほど、多数のイベントが実施されていることが示唆される³⁹⁾。

38) 表5-1では、イベント数と関連を持つと思われる変数との相関係数を示している。なお、検討の対象とした全変数との相関行列については、表5-2を参照。

39) スペースの面積と座席数は相関している。しかし、面積とイベント数は共変せず、座席数とイベント数が共変している。こうした関係についていくつかの解釈ができそうである。たとえば、座席数の多いスペースでは、利用者間が密集するため、イベントで交流を図り、利用する際にあいさつ程度はできる関係を構築しておく必要があるため、イベントを増加させている、などがその一例である。こうした解釈は、パーティション席数とイベント数は無相関であることから示唆される。

スペースの專業度 (R) とイベント数には負の相関がある (-0.194 , 5% 水準)。この結果は、スペース事業への專業度が高いほど、スペース運営から収益を確保する必要性が高くなり、その一環としてイベントが頻繁に開催されていると解釈できる。

運営責任者がスペース運営に自らの時間を投入しているほど、イベント数は増加する傾向にある。それは、運営責任者の1日あたりの労働時間とも (0.284), 1週間あたりの労働日数 (0.246) とともに、イベント数との間に有意な正の相関がみられるからである。しかし、イベントを頻繁に開催することで、労働時間が長くなるという逆の関係も成立しうするため、解釈には注意を要する。なお、運営責任者のスペース運営歴とイベント数の間に相関はみられない。

スペース単体での採算性を重視した戦略をとるほど、イベント数は多い (0.261)。運営責任者はイベント数の増加が採算性の向上に結びつくと思定していると考えられる。しかし、スペース内のコミュニティ形成を重視する程度とイベント数の間に相関はみられない。スペースを起点とするコミュニティを形成するためにイベントを開催するケースは散見される⁴⁰⁾。それゆえ、この結果は運営責任者にとっては、想定とは異なるものであろう。

イベント数は、スペースにとって重要な収入源 (0.188 , 5% 水準)、イベントの善し悪しはスペース運営の重要課題 (0.172 , 5% 水準)、利用者数が増加する契機 (0.230), とそれぞれ有意な正の相関関係がある。また、イベント講師を利用者が担当する (0.230), および、イベントは利用者が提案 (0.232) とイベント数には正の相関がみられる。すなわち、イベント数の多いスペースはイベントの開催や企画に利用者が関与していることが示唆される。イベント数との関係で最も注目を向けるべきなのは、イ

イベントを契機としたスペース内外の交流に関する項目とイベント数との間に相関関係が確認されない点である。上述した、コミュニティ形成とイベント数の間に相関がみられないことも含めて、イベントを通じて、交流を図るという運営責任者の想定とは異なる結果が確認される。

特定の利用者層 (組織人, フリーランスなど) が利用者に占める割合とイベント数の間に相関はみられない⁴¹⁾。

成果 (売上を除く現状) に関する項目とイベント数については、利用者間の相互交流に関する項目とイベント数との間に、10% 水準でしか相関がみられない点が特徴的である。すなわち、相互交流を促進するために、運営責任者が働きかけているほど (0.144 , 10% 水準)、利用者間が進んで名刺交換をするほど (0.151 , 10% 水準)、イベント数は多い。しかし、先のイベントに関する結果も踏まえると、分析対象となるスペースでは、イベントがコミュニティ形成の施策として機能していないことが示唆される。

4.4.2 イベントに対する運営責任者の見解

表6に示されているように、運営責任者の労働時間とイベントに関する見解との間には以下の関係が確認される。イベントは収入源 (0.202 , 5% 水準)、イベントはスペース運営の課題 (0.182 , 5% 水準) の2項目と、運営責任者の1日あたりの労働時間の間には正の相関が成立している。イベントに対する見解の10項目すべてに有意な相関がみられるわけではないが、イベントを運営責任者が重視するほど、スペース運営に投入する時間を増やしていると推測できる。運営責任者のスペース運営歴とイベントに関する見解には、有意な相関が成立していないものも含めて全体的に負の相関関係がみられる。これは、運営歴が長くなるほど、イ

40) たとえば、『Coworking Magazine』Vol.1の14-15頁には、コミュニティ形成を目的としたイベントに関する記述がみられる。

41) イベント数の増減に応じて特定の利用者の割合が増減するという、ここでの想定とは逆の因果関係も検討可能である。しかし、いずれにしても相関はみられない。

表 5-1 イベント回数の相関

		平均	標準偏差	イベント回数(月)
活動		イベント回数 (月)	5.68	6.30
				1.000
施設	面積 (㎡)	123.95	148.20	0.049
				0.552
	座席数	33.89	26.76	0.261 **
				0.001
運営組織	パーティション席数	5.75	10.13	0.077
				0.343
	専業度 (R)	2.55	0.68	-0.194 *
				0.017
運営組織	労働時間 (日)	7.29	3.68	0.284 **
				0.000
	労働日数 (週)	4.74	1.76	0.246 **
				0.002
運営組織	運営歴 (月)	19.49	12.24	0.116
				0.153
	スタッフ数	5.57	5.79	0.121
				0.136
戦略	近隣スペースはライバル	1.86	0.97	0.076
				0.351
	近隣スペースと連携	2.53	1.37	-0.037
				0.651
	遠隔スペースと連携	2.75	1.48	0.185 *
				0.023
	地域と連携	3.47	1.30	0.021
				0.797
	他企業と連携	3.07	1.49	0.224 **
				0.006
	行政と連携	2.63	1.50	0.236 **
				0.003
	NPOと連携	2.44	1.42	0.173 *
				0.033
	公的機関と連携	2.24	1.29	0.110
				0.177
活動 (イベント回数 を除く)	採算性重視	2.68	1.44	0.261 **
				0.001
	コミュニティ形成重視	4.26	0.95	0.114
				0.161
	イベントは収入源	3.34	1.37	0.188 *
				0.020
	外部との相互交流促進	4.05	1.08	0.144
				0.077
	利用者間の相互交流促進	3.79	1.19	0.099
				0.224
	イベントはスペース運営 の課題	3.84	1.13	0.172 *
				0.034
	イベントは運営責任者が 企画	3.29	1.13	-0.071
				0.386
	イベントは利用者が提案	3.13	1.03	0.232 **
				0.004
活動 (イベント回数 を除く)	イベントの講師は運営責任 者が担当	2.49	1.09	0.023
				0.778
	イベントの講師は利用者が 担当	3.18	1.04	0.230 **
				0.004
	イベントは利用者増の契 機	3.33	1.00	0.230 **
				0.004
	イベントは重要	4.26	0.94	0.215 **
				0.008
利用者	学生 (%)	10.59	15.36	-0.048
				0.557
	組織人 (%)	29.71	23.17	0.034
				0.677
	フリーランス (%)	42.80	27.49	-0.044
				0.592
	主夫/主婦 (%)	8.57	15.44	-0.014
				0.865
	その他 (%)	8.34	19.53	0.070
				0.391
成果 (売上 を除く)	運営責任者が利用者間の 相互交流促進	3.73	1.22	0.144
				0.076
	利用者が相互交流促進	3.41	1.20	0.151
				0.063
	仕事の進捗目的でスペース を利用	3.72	0.95	0.044
				0.594
	運営責任者との交流期待	3.38	0.92	0.141
				0.083
	他の利用者との交流期待	3.51	1.03	0.096
				0.240
	協働による新製品・サー ビス創出	3.43	1.12	0.124
				0.128
	利用者単独での新製品・ サービス創出	3.32	1.09	0.091
				0.262
	スペースの利用者増を希 望	4.43	0.85	0.083
				0.311
成果 (売上 を除く)	スペースの現状に満足	2.26	1.08	0.119
				0.145
	スペース単体で利益確保	2.28	1.30	0.234 **
				0.004

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$
各変数の上段は相関係数、下段は有意確率である。

イベントを重視しなくなる傾向があることを意味する。スペースを長く運営している場合、利用者間で何らかのコミュニティが既に形成されており、イベントを通じて新たなコミュニティを生成する必要性が低くなるのかもしれない。また、上述してきたイベントに関する分析結果を踏まえると、スペース運営歴が長くなるほど、イベント開催に重要性を見出せなくなるとも解釈可能かもしれない。

戦略とイベントに対する見解について、主要な結果に注目する。「採算性重視」と「イベントは重要」という変数の間には相関がみられない。一方で、スペース内でのコミュニティ形成を重視しているほど、スペースにとってイベントは重要であり (0.415)、イベントを契機にスペース内 (0.362) およびスペース外 (0.329) の人々との相互交流が促進されると運営責任者は認識している。運営責任者は、イベントはスペース事業の採算性には結びつかないが相互交流やコミュニティの形成にはつながると考えていると解釈できる。

また、地域 (0.266)、行政 (0.295)、NPO (0.162, 5% 水準) と連携しているほど、イベントは重要であると運営責任者は認識している。近隣あるいは遠隔のスペースとの連携の程度と当該項目との間で相関はみられなかった。このことから、スペースを取り巻く同業者以外の組織や地域との連携を推進しているほど、イベントを重要視していることが示唆される⁴²⁾。

イベントに関する見解の項目間の相関関係からは以下の点が示唆される。イベントを契機に外部との相互交流促進とイベントを契機に利用者間の相互交流促進の2変数の間には強い正の相関関係が成立している (0.703)。イベントを契機に利用者間の交流が促進されるほど、外部

42) この結果は、イベントは利用者に対して多様な便益を提供するために、スペース以外の主体と提携して行うという傾向を示しているものと思われる。

きっかけとなっていること、運営上の課題であると認識していることから、イベントを重視していると解釈可能であろう。

4.5 利用者

表1に示したように、本論文における利用者に関する項目は、利用者数（およびヘビー・ユーザー数）、会員／非会員の割合、利用者の属性、会員／非会員の利用時間（日）である。以下では、4.5.1にて、利用者数と（1）施設、（2）運営組織、（3）戦略、（4）活動、（5）利用者（ヘビー・ユーザー数）に関する項目との関係について検討する。4.5.2では、会員／非会員の割合と（3）戦略、（4）活動、（5）利用者（利用者の属性）、（6）成果（売上に関する項目）に関する項目との関係を確認し、4.5.3

表6 イベントに対する見解の相関行列

	平均	標準偏差	イベントは収入源	外部との相互交流促進	利用者間の相互交流促進	イベントはスペース運営の課題	イベントは運営責任者が企画	イベントは利用者が提案	イベントの講師は運営責任者が担当	イベントの講師は利用者が担当	イベントは利用者の増の契機	イベントは重要	専業度 (R)	
活動	イベントは収入源	3.34	1.37	1.000										
	外部との相互交流促進	4.05	1.08	0.377 **	1.000									
	利用者間の相互交流促進	3.79	1.19	0.364 **	0.703 **	1.000								
	イベントはスペース運営の課題	3.84	1.13	0.412 **	0.437 **	0.516 **	1.000							
	イベントは運営責任者が企画	3.29	1.13	0.171 *	0.408 **	0.331 **	0.401 **	1.000						
	イベントは利用者が提案	3.13	1.03	0.138	0.214 **	0.145	0.046	-0.288 **	1.000					
	イベントの講師は運営責任者が担当	2.49	1.09	0.090	0.008	0.074	0.578	0.000	0.087	0.114				
	イベントの講師は利用者が担当	3.18	1.04	0.172 *	0.187 *	0.233 **	0.171 *	0.420 **	0.093	1.000				
	イベントは利用者の増の契機	3.33	1.00	0.034	0.021	0.004	0.035	0.000	0.254		1.000			
	イベントは重要	4.26	0.94	0.153	0.140	0.228 **	0.188 *	-0.192 *	0.524 **	-0.013		1.000		
運営組織	専業度 (R)	2.55	0.68	0.061	0.086	0.005	0.020	0.018	0.000	0.877	0.154		1.000	
	労働時間 (日)	7.29	3.68	0.279 **	0.493 **	0.501 **	0.275 **	0.168 *	0.229 **	0.156	0.154	1.000		
	労働日数 (週)	4.74	1.76	0.001	0.000	0.000	0.001	0.039	0.005	0.055	0.058			
	運営歴 (月)	19.49	12.24	0.333 **	0.530 **	0.462 **	0.514 **	0.287 **	0.076	0.078	0.150	0.438 **	1.000	
	スタッフ数	5.57	5.79	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.351	0.339	0.065	0.000		
	近隣スペースはワイバル	1.86	0.97	-0.117	0.042	0.020	-0.034	0.086	-0.060	0.095	0.087	0.114	-0.013	1.000
	近隣スペースと連携	2.53	1.37	0.153	0.608	0.805	0.681	0.290	0.461	0.244	0.286	0.163	0.869	
	遠隔スペースと連携	2.75	1.48	0.202 *	0.125	0.118	0.182 *	-0.068	0.144	-0.019	0.117	0.087	0.099	-0.093
	地域と連携	3.47	1.30	0.013	0.126	0.148	0.025	0.403	0.077	0.817	0.152	0.286	0.224	0.256
	他企業と連携	3.07	1.49	0.102	0.115	0.103	0.236 **	-0.009	0.149	0.003	0.200 *	0.108	-0.032	-0.115
戦略	行政と連携	2.63	1.50	0.209	0.157	0.205	0.003	0.912	0.066	0.967	0.014	0.184	0.695	0.159
	NPOと連携	2.44	1.42	-0.115	-0.114	-0.066	-0.302 **	0.165 *	-0.027	-0.041	-0.016	-0.152	-0.208 *	0.038
	公的機関と連携	2.24	1.29	0.158	0.162	0.420	0.000	0.042	0.737	0.619	0.841	0.062	0.010	0.640
	採算性重視	2.68	1.44	-0.066	-0.042	-0.053	-0.121	-0.132	-0.013	-0.109	-0.074	0.053	0.090	-0.092
	コミュニティ形成重視	4.26	0.95	0.422	0.608	0.514	0.138	0.104	0.872	0.182	0.362	0.517	0.271	0.261
				0.066	-0.164 *	-0.008	0.053	-0.139	0.163 *	-0.074	0.097	-0.096	-0.019	-0.036
				0.422	0.044	0.921	0.520	0.088	0.045	0.365	0.234	0.239	0.816	0.664
				0.136	0.165 *	0.157	0.024	0.042	0.061	0.089	-0.034	0.056	0.085	0.031
				0.095	0.042	0.053	0.768	0.605	0.456	0.274	0.681	0.491	0.299	0.707
				0.055	0.046	0.139	0.020	0.032	-0.027	0.039	-0.010	0.007	0.008	-0.074

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$

各変数の上段は相関係数, 下段は有意確率である。

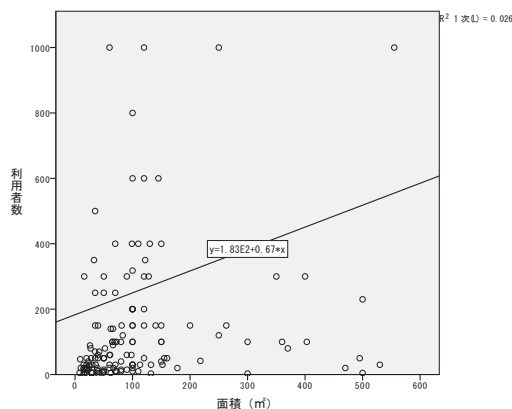


図4 スペースの面積と利用者数の関係

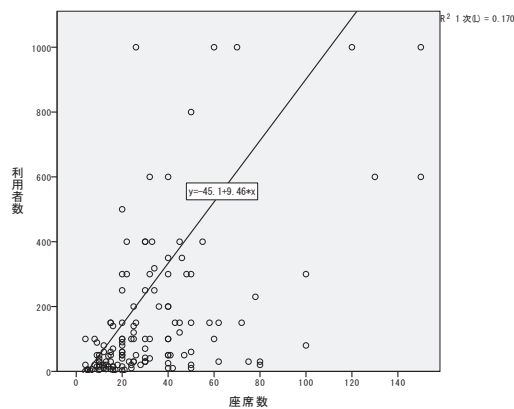


図5 座席数と利用者数の関係

は、利用者の職種間の関係について検討する。最後に、4.5.4では、会員／非会員の利用時間と(1)施設、(2)運営組織、(6)成果(売上に関する項目を除く)に関する項目との関係を確認する。

4.5.1 利用者数

利用者数については、1ヶ月平均で265.92人、中央値は70であった(宇田・阿部, 2015b)。表7に示されているように、スペースの面積と利用者数の間には、弱いものの相関が成

労働時間 (日)	労働日数 (週)	運営歴 (月)	スタッフ 数	近 隣 ス ペースは ライバル	近 隣 ス ペースと 連携	遠 隔 ス ペースと 連携	地域と連 携	他企業と 連携	行政と連 携	NPOと 連携	公的機関 と連携	採算性重 視	コミュニ ティ形成 重視
1.000													
0.667 **	1.000												
0.000													
0.129	0.042	1.000											
0.114	0.608												
-0.140	-0.248 **	0.037	1.000										
0.085	0.002	0.655											
0.056	0.041	-0.072	-0.059	1.000									
0.495	0.614	0.380	0.471										
0.025	-0.136	0.005	0.091	0.020	1.000								
0.762	0.095	0.952	0.264	0.805									
0.074	-0.040	0.136	0.135	-0.089	0.464 **	1.000							
0.364	0.624	0.095	0.097	0.276	0.000								
0.034	-0.159	0.146	0.100	0.015	0.259 **	0.306 **	1.000						
0.677	0.050	0.073	0.220	0.856	0.001	0.000							
0.016	-0.044	0.129	0.204 *	0.061	0.249 **	0.372 **	0.307 **	1.000					
0.846	0.589	0.113	0.012	0.452	0.002	0.000	0.000						
0.002	-0.032	0.017	0.119	-0.090	0.290 **	0.295 **	0.350 **	0.398 **	1.000				
0.982	0.698	0.832	0.145	0.268	0.000	0.000	0.000	0.000					
-0.048	-0.108	0.004	0.097	-0.023	0.324 **	0.335 **	0.300 **	0.324 **	0.505 **	1.000			
0.554	0.187	0.960	0.236	0.781	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000				
0.009	-0.160 *	0.126	0.213 **	-0.064	0.188 *	0.355 **	0.350 **	0.547 **	0.510 **	0.423 **	1.000		
0.910	0.048	0.121	0.098	0.434	0.020	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			
0.195 *	0.148	-0.077	0.092	0.352 **	0.123	0.158	0.021	0.047	-0.020	0.018	-0.087	1.000	
0.016	0.070	0.348	0.259	0.000	0.130	0.052	0.798	0.564	0.811	0.825	0.285		
0.113	-0.063	-0.196 *	0.128	-0.076	0.261 **	0.276 **	0.422 **	0.138	0.309 **	0.155	0.161 *	0.133	1.000
0.166	0.439	0.015	0.116	0.352	0.001	0.001	0.000	0.091	0.000	0.057	0.048	0.102	

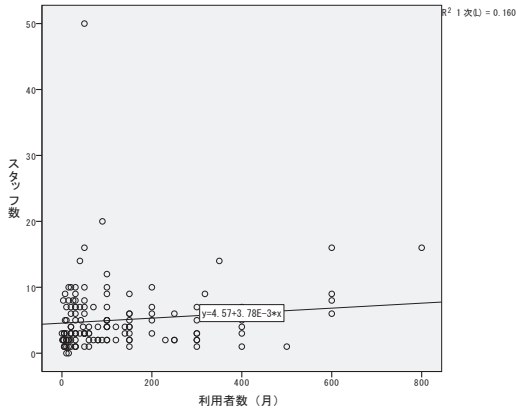


図6 利用者数とスタッフ数の関係

立している (0.162, 5% 水準)。しかし、座席数との間には、やや強い関係が示唆される (0.409)。それぞれの関係が、図4および図5に示されている。

利用者数とスタッフ数の間には、0.400 とい

う強い正の相関が確認される。利用者の増加に対応するために、スタッフを増員していると考えられる⁴³⁾。ただし、図6に示されるように、利用者数の少ないスペースは、直線上に分布していると解釈できないかもしれない。こうしたスペースでは、個々のスペースによってスタッフ数に違いがみられる可能性がある。

運営責任者の労働時間と利用者数との間には相関がみられない。つまり、運営責任者の労働時間 (すなわち、営業時間や営業日数) が増えたからといって、利用者が増加するわけではな

43) この関係は一見すると当然のように思われるが、利用者の増加とともにスタッフの負担が1次関数的に増えるとはいえない。なぜなら、先の注釈35)でも言及したように、コワーキングスペースの場合、受付などの業務が主であり、飲食業のようにすべての顧客に個別対応する機会は極めて少ないからである。

表7 利用者数の相関行列

		平均	標準偏差	利用者数	ヘビー・ユーザー数	面積 (㎡)	座席数	パーティション席数	専業度 (R)	労働時間 (日)	労働日数 (週)	運営歴 (月)
利用者	利用者数	265.92	612.35	1.000								
	ヘビー・ユーザー数	55.17	183.82	0.639 **	1.000							
施設				0.000								
	面積 (㎡)	123.95	148.20	0.162 *	0.092	1.000						
				0.046	0.261							
	座席数	33.89	26.76	0.409 **	0.240 **	0.697 **	1.000					
運営組織				0.000	0.003	0.000						
	パーティション席数	5.75	10.13	0.289 **	0.066	0.388 **	0.582 **	1.000				
				0.000	0.416	0.000	0.000					
	専業度 (R)	2.55	0.68	-0.140	0.042	0.046	-0.140	-0.114	1.000			
運営組織				0.084	0.604	0.576	0.086	0.163				
	労働時間 (日)	7.29	3.68	0.100	0.205 *	0.090	0.112	0.053	-0.093	1.000		
				0.218	0.011	0.272	0.168	0.520	0.256			
	労働日数 (週)	4.74	1.76	-0.002	0.128	0.124	0.151	0.012	-0.115	0.667 **	1.000	
				0.983	0.117	0.127	0.064	0.880	0.159	0.000		
	運営歴 (月)	19.49	12.24	0.184 *	0.096	0.020	0.003	-0.025	0.038	0.129	0.042	1.000
				0.023	0.238	0.804	0.974	0.760	0.640	0.114	0.608	
	スタッフ数	5.57	5.79	0.400 **	0.127	0.100	0.211 **	0.149	-0.092	-0.140	-0.248 **	0.037
				0.000	0.120	0.221	0.009	0.067	0.261	0.085	0.002	0.655
	近隣スペースはライバル	1.86	0.97	-0.035	0.051	0.089	0.096	0.100	-0.036	0.056	0.041	-0.072
戦略				0.670	0.531	0.275	0.240	0.219	0.664	0.495	0.614	0.380
	近隣スペースと連携	2.53	1.37	0.045	-0.027	0.052	0.046	-0.005	0.031	0.025	-0.136	0.005
				0.580	0.738	0.524	0.573	0.949	0.707	0.762	0.095	0.952
	遠隔スペースと連携	2.75	1.48	0.191 *	-0.022	0.131	0.127	0.007	-0.074	0.074	-0.040	0.136
戦略				0.019	0.792	0.107	0.120	0.933	0.364	0.364	0.624	0.095
	地域と連携	3.47	1.30	0.041	0.001	0.068	0.000	0.009	-0.058	-0.034	-0.159	-0.146
				0.617	0.991	0.403	0.995	0.908	0.475	0.677	0.050	0.073
	他企業と連携	3.07	1.49	0.205 *	0.125	0.274 **	0.297 **	0.152	0.043	0.016	-0.044	0.129
				0.011	0.124	0.001	0.000	0.062	0.600	0.846	0.589	0.113
	行政と連携	2.63	1.50	0.108	0.036	0.210 **	0.163 *	0.104	0.111	0.002	-0.032	0.017
				0.183	0.660	0.010	0.045	0.204	0.172	0.982	0.698	0.832
	N P O と連携	2.44	1.42	0.152	0.144	0.111	0.006	0.026	0.098	-0.048	-0.108	0.004
				0.061	0.076	0.173	0.937	0.751	0.227	0.554	0.187	0.960
	公的機関と連携	2.24	1.29	0.209 **	0.087	0.216 **	0.229 **	0.124	0.063	0.009	-0.160 *	0.126
戦略				0.010	0.286	0.008	0.005	0.129	0.439	0.910	0.048	0.121
	採算性重視	2.68	1.44	0.205 *	0.224 **	0.142	0.262 **	0.250 **	-0.367 **	0.195 *	0.148	-0.077
				0.011	0.005	0.080	0.001	0.002	0.000	0.016	0.070	0.348
	コミュニティ形成重視	4.26	0.95	-0.021	-0.071	0.072	0.025	-0.015	-0.044	0.113	-0.063	-0.196 *
活動				0.793	0.382	0.378	0.755	0.852	0.591	0.166	0.439	0.015
	イベント回数 (月)	5.68	6.30	0.401 **	0.313 **	0.049	0.261 **	0.077	-0.194 *	0.284 **	0.246 **	0.116
				0.000	0.000	0.552	0.001	0.343	0.017	0.000	0.002	0.153
	イベント・ジャンル (月)	3.68	3.53	0.308 **	0.049	0.056	0.237 **	0.139	-0.222 **	0.109	0.119	0.064
			0.000	0.547	0.494	0.003	0.089	0.006	0.181	0.145	0.435	

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$
 各変数の上段は相関係数, 下段は有意確率である。

いことが示唆される⁴⁴⁾。

戦略と利用者の関係に注目すると、公的機関 (0.209)、他企業 (0.205, 5% 水準)、遠隔スペース (0.191, 5% 水準) と連携しているスペースは、利用者数が多くなる傾向が示唆される。有意確率を 10% 水準まで広げて関係を確認していくと、NPO と連携しているスペースも利用者数が多くなる傾向がみられる。スペースの運営方針と利用者数との間にも有意な関係が成立している。採算性を重視しているほど、利用者数が増える傾向がみられる (0.205, 5% 水準)。一方、コミュニティ形成の重視と利用者との間には相関関係がみられない。すなわち、スペース内のコミュニティ形成を進めても、利用者が増えるわけではないことが示唆さ

れる。

活動 (イベント) と利用者数の関係に注目すると、イベント回数 (0.401) とジャンル (0.308) が多いほど、利用者数が多くなる傾向が示唆される。

利用者数が増えると、ヘビー・ユーザー数も増加していく (0.639)。しかし、ドロップイン利用者が多数を占めるスペースも存在していることを考えると、この関係は直感的に思うほどには当然成立するとはいえないように思われる。

4.5.2 会員割合

調査対象となったスペースの会員割合の平均は 46.7% である (宇田・阿部, 2015b)。表 8-1⁴⁵⁾ に示されているように、戦略 (運営方針・

44) ただし、ヘビー・ユーザーに限定すると、運営責任者の 1 日の労働時間と利用者数の間に弱い相関がみられる (0.205, 5% 水準)。

45) 表 8-1 では、会員割合と関連を持つと思われる変数との相関係数を示している。なお、検討の対象とした全変数との相関行列については、表 8-3 を参照。

[illegible]

連携方針)については、会員割合との間で全ての項目について有意な関係が確認されない。ただし、10%水準まで広げて確認すると、コミュニティの形成を重視する場合、会員の割合が増加する可能性があることが示唆される。

活動（イベント）に注目すると、イベント回数やジャンルが会員（継続的な利用者）割合に影響を与えるわけではないことが示され、イベントは会員割合の向上には貢献していないことが示唆される。本論文でここまで考察を加えてきた内容を踏まえると、イベントが利用者の定着につながらないという解釈も妥当性が高いと思われる。

さらに、利用者層（職種）との関係についても確認しておく。特定の利用者層と会員割合との間には相関がみられない。また、年齢についても同様に特定の年齢層と会員割合の間に有意な相関関係は成立していない。

最後に、スペース運営に関する運営責任者の現状認識との相関を確認しておく。運営責任者が、利用者間の相互交流を図るほど、会員割合が高まる傾向にある(0.165, 5%水準)。利用者が運営責任者との交流を期待するほど(0.216), また利用者間の交流を期待するほど(0.206, 5%水準), 会員割合が高まる。ほかにも、利用者間の協働を通じた新たなビジネスやサービスの創出があるほど(0.202, 5%水準), もしくは、利用者単独によるビジネスやサービスの創出があるほど(0.177, 5%水準), 会員の割合が高まる。すなわち、利用者による何らかの成果が創出されていると運営責任者が認識しているほど、利用者が定着する傾向にあることが示唆される。

4.5.3 利用者の職種

利用者の職種について、学生、組織人、フリーランス、主夫／主婦、その他の割合につい

表 8-1 会員割合の相関

		平均	標準偏差	会員 (%)	ドロップイン (%)
利用者	会員 (%)	46.66	38.91	1.000	
	ドロップイン (%)	53.34	38.91	-1.000 **	1.000
			0.000		
戦略	近隣スペースはライバル	1.86	0.97	-0.015	0.015
				0.850	0.850
	近隣スペースと連携	2.53	1.37	-0.084	0.084
				0.301	0.301
	遠隔スペースと連携	2.75	1.48	0.029	-0.029
				0.720	0.720
	地域と連携	3.47	1.30	0.015	-0.015
				0.854	0.854
	他企業と連携	3.07	1.49	0.093	-0.093
				0.256	0.256
	行政と連携	2.63	1.50	0.070	-0.070
				0.392	0.392
	NPOと連携	2.44	1.42	0.022	-0.022
				0.791	0.791
活動	公的機関と連携	2.24	1.29	0.112	-0.112
				0.170	0.170
	採算性重視	2.68	1.44	0.067	-0.067
				0.414	0.414
	コミュニティ形成重視	4.26	0.95	0.152	-0.152
				0.061	0.061
利用者 (会員割合を 除く)	イベント回数 (月)	5.68	6.30	0.065	-0.065
				0.426	0.426
	イベント・ジャンル (月)	3.68	3.53	0.038	-0.038
				0.639	0.639
	利用者数	265.92	612.35	-0.077	0.077
				0.347	0.347
	ヘビー・ユーザー数	55.17	183.82	-0.038	0.038
				0.645	0.645
	20歳未満 (%)	5.32	10.00	-0.134	0.134
				0.099	0.099
	20歳代 (%)	21.15	15.33	0.051	-0.051
				0.529	0.529
	30歳代 (%)	38.38	19.43	0.055	-0.055
				0.502	0.502
利用者 (会員割合を 除く)	40歳代 (%)	22.75	13.91	0.088	-0.088
				0.278	0.278
	50歳代 (%)	8.63	9.18	-0.159	0.159
				0.050	0.050
	60歳代以上 (%)	3.78	6.88	-0.041	0.041
				0.614	0.614
	学生 (%)	10.59	15.36	-0.040	0.040
				0.628	0.628
	組織人 (%)	29.71	23.17	-0.096	0.096
				0.238	0.238
	フリーランス (%)	42.80	27.49	0.127	-0.127
				0.119	0.119
	主夫／主婦 (%)	8.57	15.44	-0.143	0.143
				0.079	0.079
成果 (売上を除く)	その他 (%)	8.34	19.53	0.080	-0.080
				0.327	0.327
	運営責任者が利用者間の 相互交流促進	3.73	1.22	0.165 *	-0.165 *
				0.042	0.042
	利用者が相互交流促進	3.41	1.20	0.116	-0.116
				0.155	0.155
	仕事の進捗目的でスペース を利用	3.72	0.95	0.066	-0.066
				0.418	0.418
	運営責任者との交流期待	3.38	0.92	0.216 **	-0.216 **
				0.008	0.008
	他の利用者との交流期待	3.51	1.03	0.206 *	-0.206 *
				0.011	0.011
	協働による新製品・サー ビス創出	3.43	1.12	0.105	-0.105
				0.198	0.198
成果 (売上を除く)	利用者単独での新製品・サ ービス創出	3.32	1.09	0.202 *	-0.202 *
				0.013	0.013
	スペースの利用者増を希 望	4.43	0.85	0.177 *	-0.177 *
				0.029	0.029
	スペースの現状に満足	2.26	1.08	0.137	-0.137
				0.092	0.092
	スペース単体で利益確保	2.28	1.30	0.101	-0.101
				0.214	0.214

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$
各変数の上段は相関係数, 下段は有意確率である。

て合計で 100% になるように質問票調査では尋ねている。ここで表 8-2 に注目する。フリーランス利用者と他の利用者層の間にはすべて負の相関関係が成立している。より具体的には、

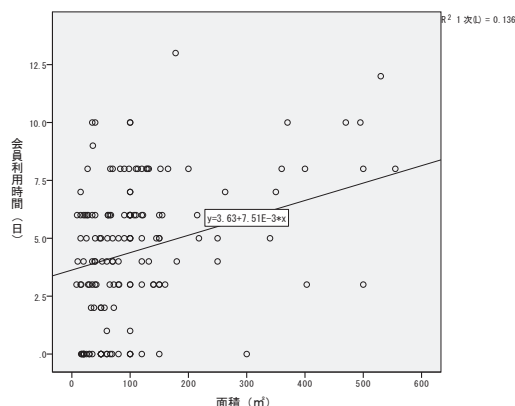


図 7 スペースの面積と会員利用時間の関係

組織人(-0.484), 学生(-0.353), その他(-0.333), 主夫／主婦(-0.281)という関係が確認される。割合を尋ねているため, ある層の割合が増加すると他の層が減少する。しかし, フリーランスと他の利用者層すべてに負の相関関係が成立することは注目に値する。フリーランスが利用するスペースは, フリーランスしか利用しない傾向にある。また, 同様の傾向は組織人と, 主夫／主婦(-0.200, 5%水準), その他(-0.270)にもみられる。つまり, 分析対象のスペースでは利用者の職種という点で現状では多様性が高いとはいえない。

4.5.4 利用時間

会員の利用時間については, 1 日平均で 4.56 時間である (宇田・阿部, 2015b)。表 9 に示されているように, スペースの面積と会員利用時間の間には相関関係がみられる (0.368)。この関係を図 7 に示してある。また, 座席数 (0.282), パーティション席数 (0.212) と利用時間の間にも正の相関関係がみられる。

運営組織については, 運営責任者の労働時間と年齢に焦点を当てる。運営責任者の労働時間 (日) と会員の利用時間にも相関関係がある (0.343)。これは, 利用者の要望に沿って, 運営責任者が営業時間を長くしているか, もしくは営業時間が長いために会員の利用時間が長くなる, と解釈できる。また, 運営責任者の年齢

表 8-2 利用者の職種の相関行列

	平均	標準偏差	学生 (%)	組織人 (%)	フリーランス (%)	主夫／主婦 (%)	その他 (%)
学生 (%)	10.59	15.36	1.000				
組織人 (%)	29.71	23.17	-0.097	1.000			
フリーランス (%)	42.80	27.49	-0.353 **	-0.484 **	1.000		
主夫／主婦 (%)	8.57	15.44	-0.042	-0.200 *	-0.281 **	1.000	
その他 (%)	8.34	19.53	-0.142	-0.270 **	-0.333 **	-0.124	1.000

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$
各変数の上段は相関係数、下段は有意確率である。

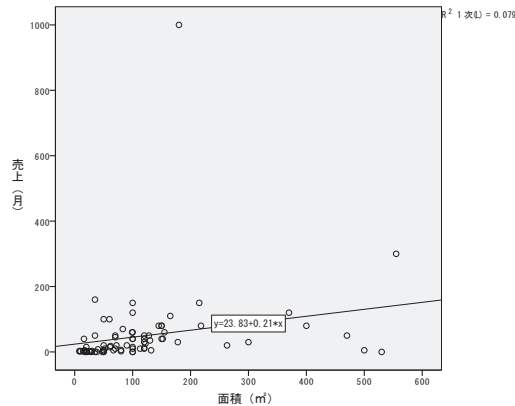


図 8 スペースの面積と売上の関係

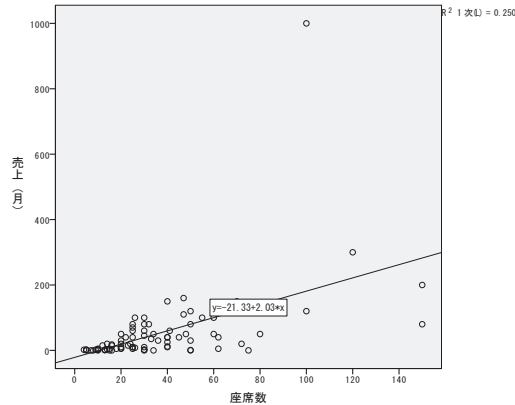


図 9 座席数と売上の関係

が高いほど、会員の利用時間が短くなる傾向にある (-0.180 , 5% 水準)。運営者の平均年齢が 38.91 歳であり、利用者層の大半が 30-40 代で占められていることから、利用者との年齢差が開くと、利用者との交流や情報共有が難し

くなることに起因するのかもしれない。

スペースに関する運営責任者の現状認識と利用時間の関係について注目すべき点は、以下の通りである。運営責任者が利用者間の相互交流を促すほど (0.220), もしくは, 利用

者同士でも相互交流が行われるようになるほど (0.230), 会員の利用時間が長くなる傾向にある。また, 運営責任者との交流を期待しているほど (0.191, 5% 水準), 他の利用者との交流を期待しているほど (0.251), 利用時間は長くなる傾向にある。また, 利用者間の協働によって (0.229), もしくは, 利用者単独で (0.279) 新たなビジネスが創出されているほど, 利用時間は長くなる。

4.6 成果

表 1 に示したように, 本論文における成果に関する項目は, 売上, 会員売上の割合とスペースに関する現状認識を構成する次の 10 項目⁴⁶⁾である。すなわち, ①利用者どうしの相互交流を促進するために, 運営責任者が働きかけている, ②利用者どうしが自ら進んで名刺交換をするなど, 交流を図っている, ③利用者がスペースを利用するのは, 仕事ははかどるからである, ④利用者がスペースを利用するのは, 運営責任者との交流を期待するからである, ⑤利用者がスペースを利用するのは, 他の利用者との交流を期待するからである, ⑥利用者どうしの協働をつうじて, 新しいビジネスやサービスなどが生み出されている, ⑦個々の利用者によって新しいビジネスやサービスなどが生み出されている, ⑧自身が運営するスペースの利用者を増加させたい, ⑨自身が運営するスペースの現

46) 各項目について, 「1=全くちがう」から「5=全くその通り」の 5 点尺度で尋ねている。

48) 専業度 (R) については、スペース専業が14、スペース運営を主とするものが37、スペース運営以外を主とするものが98である。本論文の分析対象は、国内のコワーキングスペース全体の40%強に相当すると考えられる。これらの知見をもとに推測すると、専業度について、母集団が正規分布するとは想定しにくい。それゆえ、ここでの解釈には注意を要する。

表 9 利用時間の相関行列

		平均	標準偏差	会員利用時間 (日)	ドロップイン 利用時間 (日)	面積 (m ²)	座席数	パーティショ ン座席数	専業度 (R)	労働時間 (日)	労働日数 (週)	運営歴 (月)
利用者	会員利用時間 (日)	4.56	3.02	1.000								
	ドロップイン利用時間 (日)	3.14	2.05	0.391 **	1.000							
				0.000								
施設	面積 (m ²)	123.95	148.20	0.368 **	0.253 **	1.000						
				0.000	0.002							
	座席数	33.89	26.76	0.282 **	0.166 *	0.697 **	1.000					
				0.000	0.042	0.000						
	パーティション座席数	5.75	10.13	0.212 **	0.114	0.388 **	0.582 **	1.000				
				0.009	0.163	0.000	0.000					
	専業度 (R)	2.55	0.68	-0.014	-0.133	0.046	-0.140	-0.114	1.000			
				0.862	0.102	0.576	0.086	0.163				
	労働時間 (日)	7.29	3.68	0.343 **	0.359 **	0.090	0.112	0.053	-0.093	1.000		
運営組織				0.000	0.000	0.272	0.168	0.520	0.256			
	労働日数 (週)	4.74	1.76	0.131	0.194 *	0.124	0.151	0.012	-0.115	0.667 **	1.000	
				0.109	0.017	0.127	0.064	0.880	0.159	0.000		
	運営歴 (月)	19.49	12.24	0.087	0.050	0.020	0.003	-0.025	0.038	0.129	0.042	1.000
				0.287	0.538	0.804	0.974	0.760	0.640	0.114	0.608	
	運営責任者年齢	38.91	8.95	-0.180 *	-0.114	0.001	-0.101	-0.055	0.109	-0.112	0.064	-0.032
				0.027	0.162	0.992	0.215	0.501	0.182	0.171	0.438	0.694
	スタッフ数	5.57	5.79	0.069	-0.098	0.100	0.211 **	0.149	-0.092	-0.140	-0.248 **	0.037
				0.401	0.228	0.221	0.009	0.067	0.261	0.085	0.002	0.655
	運営責任者が利用者間の相互交流促進	3.73	1.22	0.220 **	0.050	0.178 *	0.081	-0.012	-0.069	0.144	0.060	0.018
				0.006	0.541	0.029	0.321	0.884	0.401	0.077	0.463	0.823
	利用者が相互交流促進	3.41	1.20	0.230 **	0.118	0.096	-0.079	-0.141	-0.003	0.175 *	0.048	0.163 *
				0.004	0.147	0.238	0.331	0.082	0.968	0.031	0.560	0.045
	仕事の進捗目的でスペースを利用	3.72	0.95	0.111	0.151	-0.012	0.005	0.090	-0.119	0.088	0.060	0.018
				0.172	0.063	0.880	0.953	0.270	0.145	0.279	0.465	0.821
	運営責任者との交流期待	3.38	0.92	0.191 *	-0.036	-0.015	-0.176 *	-0.250 **	-0.001	0.134	0.039	0.029
				0.018	0.660	0.858	0.030	0.002	0.987	0.100	0.630	0.720
	他の利用者との交流期待	3.51	1.03	0.251 **	0.031	0.098	-0.088	-0.143	-0.010	0.048	-0.026	-0.027
成果 (売上を 除く)				0.002	0.706	0.230	0.278	0.079	0.904	0.553	0.746	0.738
	協働による新製品・サービス創出	3.43	1.12	0.229 **	0.157	0.168 *	0.084	-0.018	0.008	0.054	0.037	0.122
				0.005	0.054	0.039	0.301	0.828	0.919	0.505	0.653	0.134
	利用者単独での新製品・サービス創出	3.32	1.09	0.279 **	0.174 *	0.203 *	0.090	-0.024	0.065	0.051	0.019	0.131
				0.001	0.032	0.012	0.273	0.765	0.428	0.533	0.814	0.107
	スペースの利用者増を希望	4.43	0.85	0.182 *	-0.055	0.049	0.042	0.016	0.075	0.036	-0.041	-0.211 **
				0.025	0.504	0.549	0.606	0.842	0.361	0.657	0.614	0.009
	スペースの現状に満足	2.26	1.08	0.072	0.111	0.128	0.116	0.094	-0.044	-0.018	-0.065	0.354 **
				0.375	0.172	0.116	0.155	0.249	0.592	0.829	0.423	0.000
	スペース単体で利益確保	2.28	1.30	0.211 **	0.096	0.254 **	0.346 **	0.296 **	-0.246 **	0.131	0.092	0.424 **
				0.009	0.238	0.002	0.000	0.000	0.002	0.108	0.260	0.000

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$, 運営責任者年齢のみ $N = 151$
 各変数の上段は相関係数, 下段は有意確率である。

られない。コワーキングビザ jp のようなスペース間の相互利用を促す仕組みやスペースあるいは地域、行政とのイベントの共催などの連携事例は多数確認されるが、連携自体が売上増をもたらすわけではないことが示唆される。

イベントの回数が多いほど (0.278, 5%水準), もしくは, イベントのジャンルが多岐にわたるほど (0.369), 売上が高いという傾向がみられる。

利用者数が増えるほど, 売上が増える (0.721)。特定の利用者層 (組織人やフリーランスなど) が利用者に占める割合と売上の間に相関は見られない。会員およびドロップイン (ここでは, 一時利用者) の 1 日あたりの平均利用時間と売上の間に相関はみられない。会員, ドロップインを問わず, 平均利用時間が伸びても売上に結びつかないことが示唆される。この背景には, コワーキングスペースの課金シ

ステムと利用実態があると考えられる。多くのスペースでは, 料金が利用時間に依じて 1 次関数的に増えない。つまり, 会員の場合, 月額固定料金制が支配的であり, ドロップインの場合, 1 日 1,000 円のような回数にもとづく料金設計, もしくは「2 時間 500 円, 半日 1,000 円」などのように, 時間あたりの料金が通減していく料金体系が採用されている。

利用者間の相互交流の促進にむけた運営責任者の働きかけの程度および利用者間の相互交流の程度と, 売上の間には相関がみられない。すなわち, 利用者間が交流を図ろうとも図らなくとも, スペースの売上には差はみられない。また, 利用者間の協働を通じた, あるいは個々の利用者による新規ビジネスやサービスの創出の程度と売上の間にも相関がみられない。これは, スペース利用を通じて生み出された成果は, スペース運営に直接的に貢献するわけでは

運営責任者年齢	スタッフ数	運営責任者が利用者間の相互交流促進	利用者が相互交流促進	仕事の進捗目的でスペースを利用	運営責任者との交流期待	他の利用者との交流期待	協働による新製品・サービス創出	利用者単独での新製品・サービス創出	スペースの利用者増を希望	スペースの現状に満足	スペース単体で利益確保
-0.102	1.000										
0.212											
0.030	-0.122	1.000									
0.715	0.134										
0.004	-0.086	0.569 **	1.000								
0.959	0.293	0.000									
-0.004	0.127	-0.072	-0.048	1.000							
0.963	0.120	0.377	0.559								
0.020	-0.080	0.520 **	0.633 **	-0.022	1.000						
0.804	0.325	0.000	0.000	0.789							
-0.087	0.013	0.535 **	0.645 **	-0.076	0.680 **	1.000					
0.290	0.871	0.000	0.000	0.350	0.000						
-0.110	0.021	0.473 **	0.605 **	0.086	0.497 **	0.555 **	1.000				
0.181	0.801	0.000	0.000	0.295	0.000	0.000					
-0.073	-0.021	0.414 **	0.541 **	0.108	0.460 **	0.414 **	0.786 **	1.000			
0.370	0.797	0.000	0.000	0.183	0.000	0.000	0.000				
0.122	-0.069	0.322 **	0.195 *	0.160 *	0.226 **	0.228 **	0.131	0.200 *	1.000		
0.134	0.399	0.000	0.016	0.049	0.005	0.005	0.109	0.013			
-0.022	0.236 **	-0.011	0.151	0.249 **	0.127	0.064	0.212 **	0.249 **	-0.246 **	1.000	
0.792	0.003	0.892	0.064	0.002	0.119	0.433	0.009	0.002	0.002		
-0.129	0.164 *	0.138	0.189 *	0.118	0.073	0.048	0.176 *	0.193 *	0.030	0.457 **	1.000
0.114	0.043	0.089	0.020	0.149	0.370	0.557	0.030	0.017	0.713	0.000	

ないことを示している。

会員売上比率と売上の間に相関はみられない。会員の相対的割合を増やしても、売上増に必ずしも結びつかないことが示唆される。

4.6.2 スペースに関する現状認識

表 11-1⁴⁹⁾に示されているように、面積が広いスペースほど、スペース単体で利益が出ている傾向にある (0.254)。座席数との間にも同様に、正の相関がみられる (0.346)。すなわち、大規模なスペースほど、利益が出る傾向にあることが示唆される。

スタッフ数が多いほど、スペースの現状に満足しており (0.236)、スペース単体での利益が

増える傾向にある (0.164, 5% 水準)。スタッフ数が増えるほど、スペース単体での利益が増大し、運営に関する満足度も高まると解釈できる。しかし、利益が出ていることで満足度も高まり、スタッフ数を増やすことができるという逆の解釈も成立する。そのため解釈には注意が必要である。また、運営責任者の労働時間および労働日数と現状の満足度およびスペース単体での利益の間に相関はみられない。このことから、運営責任者が長時間働いたとしてもスペース単体での利益に直結しないことが示唆される。

戦略に関する項目との相関関係から示唆されることは以下の通りである。近隣スペースがライバルであると思うほど、スペース事業単体で利益が出ている傾向にある（0.188、5%水準）。また、他の主体と連携を取っているほど、利用者間の協働によって新たな事業が創出

49) 表 11-1 では、スペースに関する現状認識を構成する 10 項目と関連を持つと思われる変数との相関係数を示している。なお、検討の対象とした全変数との相関行列については、表 11-2 を参照。

表 10-1 売上の相関

		平均	標準偏差	売上 (月)
成果	売上 (月)	51.42	117.16	1.000
	会員売上比率 (%)	46.66	38.91	0.035
	ドロップイン売上比率 (%)	53.34	38.91	0.754
施設	面積 (㎡)	123.95	148.20	0.281**
	座席数	33.89	26.76	0.538**
	パーティション席数	5.75	10.13	0.000
運営組織	専業度 (R)	2.55	0.68	-0.272*
	労働時間 (日)	7.29	3.68	0.012
	労働日数 (週)	4.74	1.76	-0.097
	運営歴 (月)	19.49	12.24	0.378
	運営責任者年齢	38.91	8.95	-0.121
	スタッフ数	5.57	5.79	0.131
				0.236
戦略	近隣スペースはライバル	1.86	0.97	-0.261*
	近隣スペースと連携	2.53	1.37	0.502**
	遠隔スペースと連携	2.75	1.48	0.000
	地域と連携	3.47	1.30	-0.005
	他企業と連携	3.07	1.49	0.965
	行政と連携	2.63	1.50	0.148
	NPOと連携	2.44	1.42	0.178
	公的機関と連携	2.24	1.29	0.172
	採算性重視	2.68	1.44	0.036
	コミュニティ形成重視	4.26	0.95	0.745
				0.266*
				0.015
				0.211
活動	イベント回数 (月)	5.68	6.30	0.054
	イベント・ジャンル (月)	3.68	3.53	0.106
				0.336
利用者	利用者数	265.92	612.35	0.230*
	ヘビー・ユーザー数	55.17	183.82	0.035
	学生 (%)	10.59	15.36	0.065
	組織人 (%)	29.71	23.17	0.558
	フリーランス (%)	42.80	27.49	0.278*
	主夫／主婦 (%)	8.57	15.44	0.010
	その他 (%)	8.34	19.53	0.369**
	会員 (%)	46.66	38.91	0.721**
	ドロップイン (%)	53.34	38.91	0.000
	会員利用時間 (日)	4.56	3.02	0.161
	ドロップイン利用時間 (日)	3.14	2.05	0.142
	運営責任者が利用者間の相互 交流促進	3.73	1.22	-0.038
	利用者が相互交流促進	3.41	1.20	0.729
成果 (売上を除く)	仕事の進捗目的でスペースを 利用	3.72	0.95	0.159
	運営責任者との交流期待	3.38	0.92	0.150
	他の利用者との交流期待	3.51	1.03	-0.165
	協働による新製品・サービス 創出	3.43	1.12	0.135
	利用者単独での新製品・サー ビス創出	3.32	1.09	-0.062
	スペースの利用者増を希望	4.43	0.85	0.578
	スペースの現状に満足	2.26	1.08	0.121
	スペース単体で利益確保	2.28	1.30	0.272
				0.013
				-0.045

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$, 売上 $N = 84$, 運営責任者年齢 $N = 151$
各変数の上段は相関係数, 下段は有意確率である。

されている傾向にある。

スペース運営の方針についても特徴的な傾向がみられる。採算性を重視して運営しているほど、利用者数を増加させたいと認識している (0.265)。また、実際にスペース単体で利益が出ている (0.397)。一方で、コミュニティ形成を重視しているほど、運営責任者が利用者間の相互交流を促している (0.480)。また、運営責任者は自身との交流を期待してスペースを利用していると認識する傾向にある (0.396)。

活動に関する項目との相関関係のなかで注目に値するものは以下の通りである。イベントの企画は、運営責任者自ら考えることが多いほど (-0.163, 5% 水準)、イベントの講師等を、運営責任者自らがつとめることが多いほど (-0.203, 5% 水準)、スペースの運営単体で利益が出ていない。これは、運営責任者によって開催されるイベントが、利益という意味での成果に結びついていないと解釈することができる一方、スペース事業で利益が出ていないため、運営責任者がイベントに一つの活路を見出し、積極的に開催していると読み解くこともできると考えられる。

利用者数が増えると、スペース単体で利益が確保されるようになる (0.338)。しかし、利用者数に関しては他の項目との関係にも注目を向けるべき点がある。利用者数の増加とともに、運営責任者との交流を期待して、スペースを利用しているわけではない、と運営責任者は考えるようになる (-0.236)。すなわち、利用者数の増加とともに、運営責任者と個々の利用者との交流が困難になっていくと運営責任者が認識していることが示唆される⁵⁰⁾。また、利用者数が増加するにつれて、利用者数を増加させたいと運営責任者たちは考えないようになる傾向がみられる (-0.238)。つまり、利用者を無制限に増加させ、利益を上げたいというわけではな

50) この結果は、相互交流の充実を追求しないほうが、利用者が増加すると解釈することもできると思われる。

く、運営責任者が利用者について一定の上限を設けようとしていることが示唆される。利益を増加させるためには利用者数の増加は不可欠であるものの、人数の増加に伴い問題も生じる。それゆえ、利用人数と現状に満足という項目の間には、強い関係がみられないのかもしれない(0.221)。

会員割合については、会員割合が高まるほど、利用者は運営責任者との交流を期待してスペースを利用すると思うようになる傾向にある(0.216)。また、利用者間の交流を期待してスペースを利用すると運営責任者は認識する傾向がみられる(0.206, 5%水準)。これは、継続的なスペース利用者の比率が高まると、運営責任者と利用者および利用者間の交流が一層期待されると運営責任者は認識していることを意味している。つまり、ドロップイン利用のような、会員と比べて一時的な利用者の割合が高い場合には、利用者は運営責任者とも、他の利用者とも交流することは難しい、と運営責任者が認識していることを示唆しているのかもしれない。

会員の利用時間が長いほど、利用者間の協働による新製品やサービス(0.229)、利用者単独での新製品やサービスの開発(0.279)が達成されている。利用時間の増加は、スペース単体での利益も高める傾向にある(0.211)。

成果については、まず売上が高いほど、スペースの運営単体での利益が高まる(0.349)。次に、現状認識に関する10項目の関係について言及する。「運営責任者が利用者間の相互交流促進」と「利用者が相互交流促進」の2変数の間には、正の相関関係が成立している(0.569)。運営責任者は、スペース内の相互交流に向けた運営責任者の働きかけが利用者間の交流に効果があると認識していることが示唆される。

また、運営責任者による利用者間の相互交流の促進は、新たなビジネスやサービスの創出にもつながっている。利用者どうしの協働をつう

じて(0.473)、個々の利用者によっても(0.414)、新しいビジネスやサービスが生み出されている。

こうした傾向は、利用者同士の交流によってもみられる。より具体的には、利用者同士が交流を図っているほど、利用者どうしの協働をつうじて(0.605)、個々の利用者によっても(0.541)、新しいビジネスやサービスが創出されている。これらの結果からは、運営責任者は、利用者間の交流がスペース内での新たなサービスやビジネスの創出に結びつくと認識していることが示唆される。

利用者間での相互交流は、スペース単体での利益とも正の相関がある(0.189, 5%水準)。なお、利用者間の相互交流を高めるための運営責任者の働きかけの程度と、スペース単体での利益の程度には相関がみられない⁵¹⁾。

利用者どうしの協働をつうじて(0.212)、また個々の利用者によって新たなビジネスやサービスが創出されているほど(0.249)、自身が運営するスペースの現状に満足している。また、これらの2項目はスペース単体での利益確保とも正の相関がある。より具体的には、利用者どうしの協働(0.176, 5%水準)、また個々の利用者(0.193, 5%水準)により、新たなビジネスやサービスが生成されているほど、スペースの運営単体で利益が確保できる傾向にある。これらの関係と合わせると、運営責任者は、利用者間の交流や、スペース内での新たなビジネスやサービスの創出が現状への満足や事業の利益に結びつくと認識していることが示唆される。

5. おわりに

最後に、本論文の主な発見事実を表12に纏

51) ただし、10%水準では、係数0.138で有意な正の相関関係が成立する。

表 10-2 売上の相関行列

[illegible]

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$, 売上 $N = 84$, 運営責任者年齢 $N = 151$
各変数の上段は相関係数, 下段は有意確率である。

めておく⁵²⁾。本論文では、6つのパートに分けてコワーキングスペースの運営上の特徴に関する相関分析の結果を示してきた。既述のように、コワーキングスペースおよびコワーキングに関する経験的研究は依然として数少ない。とりわけ、当該現象の全体像を把握しようとした研究は乏しいため、国内の152スペースのデータにもとづく本論文の知見は、一定の意義があると考えられる。しかし、いくつかの課題が残

52) 宇田・阿部(2015a)の分析結果と、本論文の知見を比較検討した結果、大きな違いはみられなかった。

されている。主たる課題は、調査設計に関する課題と分析手法に関する課題の2つに分けることができる。

調査設計に関する課題のひとつは、利用者調査を実施することである。たとえば GCS や埴淵 (2014) では、利用者に関するデータも収集・分析されている。コワーキングという現象を包括的に把握するためには、スペース運営者のみならず、利用者の調査は不可欠である。また、スペース運営に関するパネル調査を行い、GCS の知見と比較検討することも有益であると思われる。

52) 宇田・阿部（2015a）の分析結果と、本論文の知見を比較検討した結果、大きな違いはみられなかった。

[illegible]

分析手法上の問題としては、相関分析のみしか行っていない点が挙げられる。すなわち、本論文は今後の経験的研究に向けて仮説を提示したに過ぎない。本論文で示した関係について、因果関係が見出されるか否かを、回帰分析等を行い、検証していく必要がある。

これらの課題の克服を通じて、コワーキングスペースの運営およびコワーキングという働き方の体系的な理解を図ることが求められる。

謝 辞：本論文は、JSPS 基盤研究 (B) (課題番号 25285110)、JSPS 基盤研究 (C) (課題番号 26380450、15 K03596) にもとづいて推進している研究成果の一部である。ここで感謝を示したい。

表 11-1 スペースに関する現状認識の相関

	平均	標準偏差	運営責任者が 利用者間の相互 交流促進	利用者が相互 交流促進	仕事の進捗目的で スペースを利用	運営責任者との 交流期待	他の利用者との 交流期待	協働による新 製品・サービス 創出	利用者単独で の新製品・ サービス創出	スペースの利 用者増を希望	スペースの現 状に満足	スペース単体 で利益確保
成果 (売上を除く)	運営責任者が利用者間の 相互交流促進	3.73	1.22	1.000								
	利用者が相互交流促進	3.41	1.20	0.569 **	1.000							
	仕事の進捗目的でス ペースを利用	3.72	0.95	-0.072	-0.048	1.000						
	運営責任者との交流期 待	3.38	0.92	0.520 **	0.633 **	-0.022	1.000					
	他の利用者との交流期 待	3.51	1.03	0.535 **	0.645 **	-0.076	0.680 **	1.000				
	協働による新製品・ サービス創出	3.43	1.12	0.473 **	0.605 **	0.086	0.497 **	0.555 **	1.000			
	利用者単独での新製 品・サービス創出	3.32	1.09	0.414 **	0.541 **	0.108	0.460 **	0.414 **	0.786 **	1.000		
	スペースの利用者増を 希望	4.43	0.85	0.322 **	0.195 *	0.160 *	0.226 **	0.228 **	0.131	0.200 *	1.000	
	スペースの現状に満足	2.26	1.08	-0.011	0.151	0.249 **	0.127	0.064	0.212 **	0.249 **	-0.246 **	1.000
	スペース単体で利益確 保	2.28	1.30	0.138	0.189 *	0.118	0.073	0.048	0.176 *	0.193 *	0.457 **	1.000
	面積 (㎡)	123.95	148.20	0.178 *	-0.096	-0.012	0.015	0.098	0.168 *	0.203 *	0.049	0.128
	座席数	33.89	26.76	0.081	-0.079	0.005	-0.176 *	-0.088	0.084	0.090	0.042	0.116
	パーティション席数	5.75	10.13	-0.012	-0.141	0.090	-0.250 **	-0.143	-0.018	-0.024	0.016	0.094
	専業度 (R)	2.55	0.68	-0.069	-0.003	-0.119	-0.001	-0.010	0.008	0.065	0.075	-0.044
運営組織	労働時間 (日)	7.29	3.68	0.401	0.968	0.145	0.987	0.904	0.428	0.361	0.592	0.002
	労働日数 (週)	4.74	1.76	0.144	0.175 *	0.088	0.134	0.048	0.054	0.051	0.036	-0.018
	運営歴 (月)	19.49	12.24	0.077	0.031	0.279	0.100	0.553	0.505	0.533	0.657	0.829
	スタッフ数	5.57	5.79	0.060	0.048	0.060	0.039	-0.026	0.037	0.019	-0.041	-0.065
	近隣スペースはライバ ル	1.86	0.97	0.463	0.560	0.465	0.630	0.746	0.653	0.814	0.614	0.423
	近隣スペースと連携	2.53	1.37	0.018	0.163 **	0.016	0.028	0.027	0.131	-0.211 **	0.254 **	-0.424
	遠隔スペースと連携	2.75	1.48	0.823	0.045	0.821	0.730	0.738	0.134	0.107	0.009	0.000
	地域と連携	3.47	1.30	-0.122	-0.086	0.127	0.080	0.013	0.021	-0.069	0.236 **	0.164 *
	他企業と連携	3.07	1.49	0.134	0.293	0.120	0.325	0.871	0.801	0.797	0.399	0.003
	行政と連携	2.63	1.50	0.125	0.032	0.094	0.014	0.004	0.025	0.099	-0.054 **	-0.054
	N P O と連携	2.44	1.42	0.126	0.691	0.248	0.865	0.959	0.759	0.226	0.005	0.511
	公的機関と連携	2.24	1.29	0.283 **	0.140	0.019	0.047	0.157	0.066	-0.012	0.039	-0.081
	採算性重視	2.68	1.44	0.000	0.084	0.820	0.563	0.053	0.420	0.880	0.637	0.322
	コミュニティ形成重視	4.26	0.95	0.336 **	0.246 **	-0.046	0.181 *	0.188 *	0.162 *	0.067	-0.041	0.017
戦略	イベント回数 (月)	5.68	6.30	0.000	0.002	0.572	0.025	0.020	0.046	0.414	0.618	0.839
	イベント・ジャンル (月)	3.68	3.53	0.318 **	0.245 **	-0.016	0.269 **	0.367 **	0.224 **	0.085	0.101	-0.034
	イベントは収入源	3.34	1.37	0.000	0.002	0.847	0.001	0.000	0.005	0.298	0.353	0.216
	外部との相互交流促進	4.05	1.08	0.283 **	0.223 **	0.046	0.161 *	0.247 **	0.353 **	0.318 **	0.067	0.148
	利用者間の相互交流促 進	3.79	1.19	0.000	0.006	0.571	0.047	0.002	0.000	0.414	0.614	0.072
	イベントは運営責任者 が企画	3.29	1.13	0.262 **	0.172 *	0.085	0.151	0.227 **	0.165 *	0.087	0.033	-0.055
	イベントは利用者が提 案	3.13	1.03	0.001	0.034	0.000	0.064	0.005	0.043	0.289	0.686	0.394
	イベントの講師は運営 責任者が担当	2.49	1.09	0.179 *	0.121	0.098	0.115	0.122	0.074	0.095	0.018	0.062
	イベントの講師は利用 者が担当	3.18	1.04	0.028	0.138	0.230	0.157	0.134	0.363	0.242	0.823	0.449
	イベントは重要	4.26	0.94	0.142	0.194 *	-0.086	0.137	0.179 *	0.167 *	0.120	-0.118	0.165 *
	利用者数	265.92	612.35	0.081	0.017	0.291	0.092	0.027	0.039	0.141	0.149	0.042
	ヘビー・ユーザー数	55.17	183.82	0.138	0.040	0.181 *	0.027	0.097	0.009	-0.047	0.265 **	0.021
	会員 (%)	46.66	38.91	0.089	0.629	0.026	0.742	0.232	0.001	0.563	0.001	0.798
	ドロップイン (%)	53.34	38.91	0.480 **	0.324 **	0.022	0.396 **	0.461 **	0.305 **	0.162 *	0.240 **	0.050
利用者	会員利用時間 (日)	4.56	3.02	0.000	0.000	0.785	0.000	0.000	0.000	0.046	0.542	0.988
	ドロップイン利用時間 (日)	3.14	2.05	0.144	0.151	0.044	0.141	0.096	0.124	0.091	0.083	0.119
	売上 (月)	51.42	117.16	0.076	0.063	0.594	0.083	0.240	0.128	0.311	0.311	0.145
				0.156	0.130	0.149	0.148	0.118	0.168 *	0.082	0.119	0.113
				0.053	0.100	0.067	0.070	0.147	0.039	0.314	0.144	0.166
				0.162 *	0.123	0.083	0.160 *	0.116	0.041	0.001	0.084	-0.075
				0.046	0.132	0.308	0.049	0.156	0.619	0.990	0.305	0.260
				0.418 **	0.331 **	-0.128	0.347 **	0.393 **	0.288 **	0.194 *	0.141	0.022
				0.000	0.000	0.115	0.000	0.000	0.000	0.017	0.082	0.786
				0.550 **	0.376 **	-0.077	0.356 **	0.400 **	0.312 **	0.215 **	0.102	0.105
				0.000	0.000	0.348	0.000	0.000	0.008	0.210	0.198	0.882
				0.343 **	0.112	0.070	0.102	0.115	0.070	0.052	0.209 **	-0.134
				0.000	0.168	0.394	0.210	0.158	0.389	0.521	0.010	0.099
				0.259 **	0.038	-0.134	0.176 *	0.153	0.020	0.069	0.043	-0.140
活動				0.001	0.641	0.099	0.030	0.060	0.802	0.397	0.601	0.086
				0.037	0.124	0.159	0.076	0.083	0.102	0.141	0.112	0.083
				0.647	0.128	0.051	0.352	0.307	0.212	0.084	0.168	0.307
				0.174 *	0.078	-0.065	0.174 *	0.045	0.027	0.102	-0.170 *	-0.014
				0.032	0.339	0.418	0.098	0.031	0.198	0.013	0.029	0.864
				0.043	-0.006	-0.009	0.034	-0.017	0.053	0.049	0.079	-0.090
				0.597	0.938	0.910	0.679	0.839	0.517	0.552	0.336	0.273
				0.240 **	0.200 *	-0.006	0.182 *	0.223 **	0.185 *	0.218 **	0.145	0.060
				0.003	0.013	0.942	0.025	0.006	0.023	0.007	0.075	0.460
				0.355 **	0.187 *	0.097	0.210 **	0.255 **	0.202 *	0.171 *	0.252 **	-0.054
				0.000	0.021	0.233	0.009	0.002	0.013	0.035	0.002	0.508
				-0.120	-0.154	0.081	-0.236 **	-0.117	-0.036	-0.111	-0.238 **	0.221 **
				0.142	0.059	0.324	0.003	0.150	0.658	0.175	0.063	0.006
				-0.039	-0.043	0.105	-0.073	-0.082	0.018	0.049	0.010	0.139
成果				0.635	0.603	0.198	0.368	0.318	0.827	0.550	0.902	0.088
				0.165 *	0.116	0.066	0.216 **	0.206 *	0.105	0.202 *	0.177 *	0.137
				0.042	0.155	0.148	0.008	0.011	0.198	0.013	0.029	0.092
				-0.165 *	-0.116	-0.066	0.216 **	-0.206 *	-0.105	-0.202 *	-0.177 *	-0.137
				0.042	0.155	0.148	0.008	0.011	0.198	0.013	0.029	0.092
				0.220 **	0.230 **	0.111	0.191 *	0.251 **	0.229 **	0.279 **	0.182 *	0.072
				0.006	0.004	0.172	0.018	0.002	0.005	0.001	0.025	0.375
				0.050	0.118	0.151	-0.036	0.031	0.157	0.174 *	-0.055	0.111
				0.541	0.147	0.063	0.660	0.706	0.054	0.032	0.504	0.172
				-0.080	-0.185	0.080	-0.270 *	-0.045	0.025	-0.108	-0.335 **	0.267 *
				0.469	0.092	0.470	0.013	0.686	0.824	0.330	0.002	0.014
												0.001

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, $N = 152$ 。売上のみ $N = 84$
 各変数の上段は相関係数、下段は有意確率である。

表 12 本論文の主要発見事実

	主要発見事実
(1) 施設	面積が増えるほど座席数は増える。ただし、一定の面積以上になると、面積と座席数の関係は線形ではない可能性が示唆される
(2) 運営組織	- スタッフ数が増えるほど運営責任者の労働時間・日数は減る - 利用者数が多いほど、スタッフ数は増える
(3) 戦略	- 近隣スペースと連携しているスペースは、遠隔スペースとも連携している - 外部の主体（企業や行政、NPO など）と連携する場合、あらゆる主体と強く連携する - 採算性を重視するスペースは、近隣スペースを競合であるとする
(4) 活動	- イベントの企画が利用者から提案される、またイベントの講師等を利用者が務めることが多いほど、イベント数は多い - イベントはスペース事業の採算性には結びつかないが相互交流やコミュニティの形成にはつながると、運営責任者は認識している
(5) 利用者	- 運営責任者の労働時間を伸ばしても、利用者数は増加しない - イベントの回数を増やしても、利用者に占める会員の割合は高まらない - 運営責任者が利用者間の相互交流を促すほど、会員の割合が高まる - 主な会員は、40 代のフリーランスである - フリーランスの利用者が増えると、組織人の利用者が減る（逆も成立） - 個々のスペース単位で見ると、利用者の職種の多様性は低い - 運営責任者が相互交流を促す、また利用者が自ら相互交流を図るほど、利用時間は長くなる
(6) 成果	- 座席数が増えるほど、売上は高まる - 運営責任者の労働時間および日数と売上との間に相関はみられない - 運営責任者の運営歴と売上との間に相関はみられない - 他の組織や地域との連携の程度と売上との間には全体的に結びつきがみられるが、それほど強いとはいえない - イベントの回数、またイベントのジャンルが多いほど、売上が高い - 会員売上比率の増加は、売上増に必ずしも直結しない - 労働時間・日数と、スペース単体での利益との間に相関はみられない - 利用者数が増えると、相互の交流が困難になると運営責任者は認識している - 利用者間の交流や、スペース内での新たなビジネスやサービスの創出が現状への満足や事業の利益に結びつく - と運営責任者は認識している - 運営責任者の労働時間・日数とスペース単体での利益には相関がみられない - 売上が高いほど、スペースの運営単体での利益が高い

[illegible]

参考文献

- 阿部智和・宇田忠司・平本健太 (2015). 「コワーキングスペースの実態調査：2014 年度調査の概要報告」『地域経済経営ネットワーク研究センター年報』4, 89-113.
- 有元政晃・松本直人・松本裕司・城戸崎和佐・仲隆介 (2012). 「コワーキングに着目したワークプレイスに関する研究 (その 1) : コワーキングの基礎的実態調査」『日本建築学会大会学術講演梗概集』331-332.
- 埴淵知哉 (2014). 『平成 25 年度 特別研究報告書 都市における「共働空間」の現状と可能性』公益財団法人名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター.
- 小林麻実 (2011). 「組織を離れた個人のためのコワーキングの場：アカデミーヒルズ六本木ライブラリー」『情報管理』54 (9), 545-554.
- 小泉和信・池田晃一・本江正茂 (2013). 「パーソナルファブリケーションのための共同利用施設に関する事例調査報告 (その 2) : アメリカ, オランダにみる海外の施設の特徴について」『日本オフィス学会誌』5 (1), 66-71.
- ・———・——— (2014). 「パーソナルファブリケーションのための共同利用施設に関する事例調査報告 (その 3) : 日本のものづくり共同利用施設の特徴と課題」『同上誌』6 (2), 37-43.
- 小泉和信・佐々井良岳・池田晃一・本江正茂 (2012). 「パーソナルファブリケーションのための共同利用施設に関する事例調査報告」『同上誌』4 (1), 64-70.
- 中村雅章 (2013). 「コワーキングスペースのビジネス展開：現状と戦略」『中京経営研究』22 (1・2), 59-74.
- Spinuzzi, C. (2012). "Working Alone Together: Coworking as Emergent Collaborative Activity", *Journal of Business and Technical Communication*, 26 (4), 399-441.
- 宇田忠司 (2013). 「コワーキングの概念規定と理論的展望」『経済学研究』63 (1), 115-125.
- 宇田忠司・阿部智和 (2015a). 「コワーキングスペースの実態調査：2014 年度調査の分析結果」『地域経済経営ネットワーク研究センター年報』4, 115-133.
- 宇田忠司・阿部智和 (2015b). 「コワーキングスペースの様態：国内施設の記述統計分析」『経済学研究』65 (1), 67-95.
- 渡辺修司・松本直人・松本裕司・城戸崎和佐・仲隆介 (2012). 「コワーキングに着目したワークプレイスに関する研究 (その 2) : コワーキングスペース利用者の場所選択要因に関する考察」『日本建築学会大会学術講演梗概集』333-334.

ワークキングスペースの実態に関するアンケート調査

RCoC; 北海道大学コワーキング研究コミュニティ

I 貴スペースの概要について伺います

Q1 貴スペースの面積と座席数についてお答えください。

面積 () m ²	座席数 () 席	そのうち、パーティション等で仕切られているのは、何席ですか、() 席
-----------------------	-----------	-------------------------------------

II 貴スペースの運営方針についてお伺いします

Q2 貴スペースの運営主体（会社等）は、コワーキングスペースの運営以外に事業を行っていますか。

1. コワーキングスペースの運営のみを行っている。
2. コワーキングスペースの運営が主だが、それ以外の事業も行っている。
3. コワーキングスペースの運営以外の事業が主である。

Q2-1 Q2に2または3の回答をされた場合、どのような事業を行っているかお知らせください。(いくつでも)

① IT系 ② クリエイティブ／デザイン系 ③ ものづくり系 ④ 不動産系
⑤ エコ／女性支援系 ⑥ 建築／建設系 ⑦ 飲食系 ⑧ 行政系
⑨ 教育機関 ⑩ その他（ ）

Q3 貴スペースの運営方針に関して、もっともよく当てはまると思う番号に○印をつけてください。

03	貴スペースの運営方針に関して、もっともよく当てはまると思う序号に○印をつけてください。									全メンバー満足 みんなから満点 みんなが満点 みんなが満点 みんなが満点 みんなが満点 みんなが満点 みんなが満点 みんなが満点 みんなが満点
1.	近隣のワーキングスペースは事業上のライバルである	1	2	3	4	5				
2.	近隣のワーキングスペースと連携している	1	2	3	4	5				
3.	ワーキングスペース単体での採算性を重視している	1	2	3	4	5				
4.	ワーキングスペースにおけるコミュニティ形成を重視している	1	2	3	4	5				
5.	近隣ではないワーキングスペースと連携している	1	2	3	4	5				
6.	ワーキングスペースが所在する地域と積極的に関わっている	1	2	3	4	5				
7.	他企業と連携している	1	2	3	4	5				
8.	行政と連携している	1	2	3	4	5				
9.	NPO と連携している	1	2	3	4	5				
10.	専門学校や大学、病院などの公的機関と連携している	1	2	3	4	5				

Q3-1 Q3の5から10の間に、4または5の回答をされた場合、具体的にどのような連携や関わりがあるのかをお知らせください。

Q4 コワーキングスペース一般にとって、競合相手となると考えられるものはどれですか。該当するものすべてに○をつけてください。

① カフエ/ファミレス ② ネットカフェ ③ レンガル・オフィス/シェアオフィス
④ 自宅/SOHO ⑤ 企業オフィス ⑥ インキューベーション施設
⑦ TV会議システム ⑧ その他 () ⑨ 特に競合はない

貴スペースの利用者についてお伺いします

Q5 貴スペースの開設前に想定していた主な利用者は、次のうちどれですか、当てはまるものすべてを選んでください。

①IT系 ②クリエイター／デザイナー系 ③ものづくり系 ④まちづくり系
⑤子育て／女性支援系 ⑥建築／建設系 ⑦文筆／ライター系
⑧営業／マーケティング系 ⑨事務系 ⑩その他（ ）

Q6 貴スペースの主な利用者は、次のうちどれですか。当てはまるものすべてを選んでください。

①IT系 ②クリエイター/デザイナー系 ③ものづくり系 ④まちづくり系
⑤子育て/女性支援系 ⑥建築/建設系 ⑦文筆/ライター系
⑧営業/マーケティング系 ⑨事務系 ⑩その他()

Q19 貴スペースの運営責任者あるいはマネージャーがスペースにいる時間はどの程度ですか。										
1日あたりおよそ（ ）時間、 1週間あたりおよそ（ ）日 上でお答えいただいた在スペース時間は、開設当初とくらべて、 ➡ ①長くなった ②変わらない ③短くなった のいずれでしょうか。当てはまるもの1つに○を付けてください。										

Ⅶ スペースの現状と今後の課題についてお伺いします

Q20 貴スペースの現状について、もっともよく当てはまると思う番号に○印をつけてください。	全く当てはまらない	やや当てはまらない	どちらでもない	やや当てはまる	完全に当てはまる
1. 利用者どうしの相互交流を促進するために、運営責任者が働きかけている	1	2	3	4	5
2. 利用者どうしが見え合えるように入退室を調整するなど、交流を図っている	1	2	3	4	5
3. 利用者がスペースを利用するのは、仕事かほかの用事からである	1	2	3	4	5
4. 利用者がスペースを利用するのは、運営責任者との交流を期待するからである	1	2	3	4	5
5. 利用者がスペースを利用するのは、他の利用者との交流を期待するからである	1	2	3	4	5
6. 利用者の利用方法として、新しいビジネスやサービスなどが生み出されている	1	2	3	4	5
7. 個々の利用者によって新しいビジネスやサービスが増加している	1	2	3	4	5
8. 自身が運営するスペースの利用者を増加させたい	1	2	3	4	5
9. 自身が運営するスペースの現状に満足している	1	2	3	4	5
10. スペースの運営団体が利益が出ている	1	2	3	4	5

Q21 貴スペースの現状の課題があればお知らせください。										
------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

Q22 貴スペースと結びつき強い、コワーキングスペースを上から3つお知らせください。										
1位スペース名：（ ）										
2位スペース名：（ ）										
3位スペース名：（ ）										